

ただの幼馴染で悪友で
親友の妻だと思っていた女と
ただれた関係になる話

U-Non
(ユーノン)



ドアを開けると、見慣れた顔があった。
いや、見飽きたといってもよい顔が。



よう
来てやったぜ

今日はもてなせよな

うるせん、お前相手に
もてななんてもったいない

俺は言い返す。



んだとこのやろ〜！

はっはっは！

悪態を言いながらカラカラと笑う。
昔から変わっていない。

こいつとは小学生からの腐れ縁、悪友である。

昔から気が合い、家が近くにあったこともあり、
よく遊んだものだ。



今でも付き合いがあり、
男女の壁を超えた友情を感じているのだが……。
相変わらず、サバサバした奴だ。
がサツといってもよい。

数年前に結婚してから落ち着くかと思いきや、
特に性格は変わらなかった。

左手の薬指をふと見る。

さいつは同じく
小学校からの幼馴染の信也と結婚したのだ。



信也は気弱なところはあるが、
優しい奴で、いつとは正反対だ。

性格が中和されて丸くなるかと思いきや、結果は見ての通りだ。

と、そこで俺は気付く。

あれ？信也のやつは
一緒じゃないのか？



あら、あいつ急に夜勤が
入っちゃってな。

急遽これなくなっちった

おいおい、それくらい事前に伝えてくれよう、
料理の量とが色々あるんだからさ。

今日は3人で俺の家で
飲み明かす約束をしていたのだ。

1人分余分に食べ物が余ってしまう。



俺の文句に悪友は

すましー！

と、なぜか笑いながら一言謝った後、

まういいじゃないか！

私とお前であいつの分まで
食えばいいだろう！

。。。などのたまっている。

自分で連絡忘れをしていて、
これである。



まあ確かに小食の信也に
合わせてるから食べられるだろうが…。

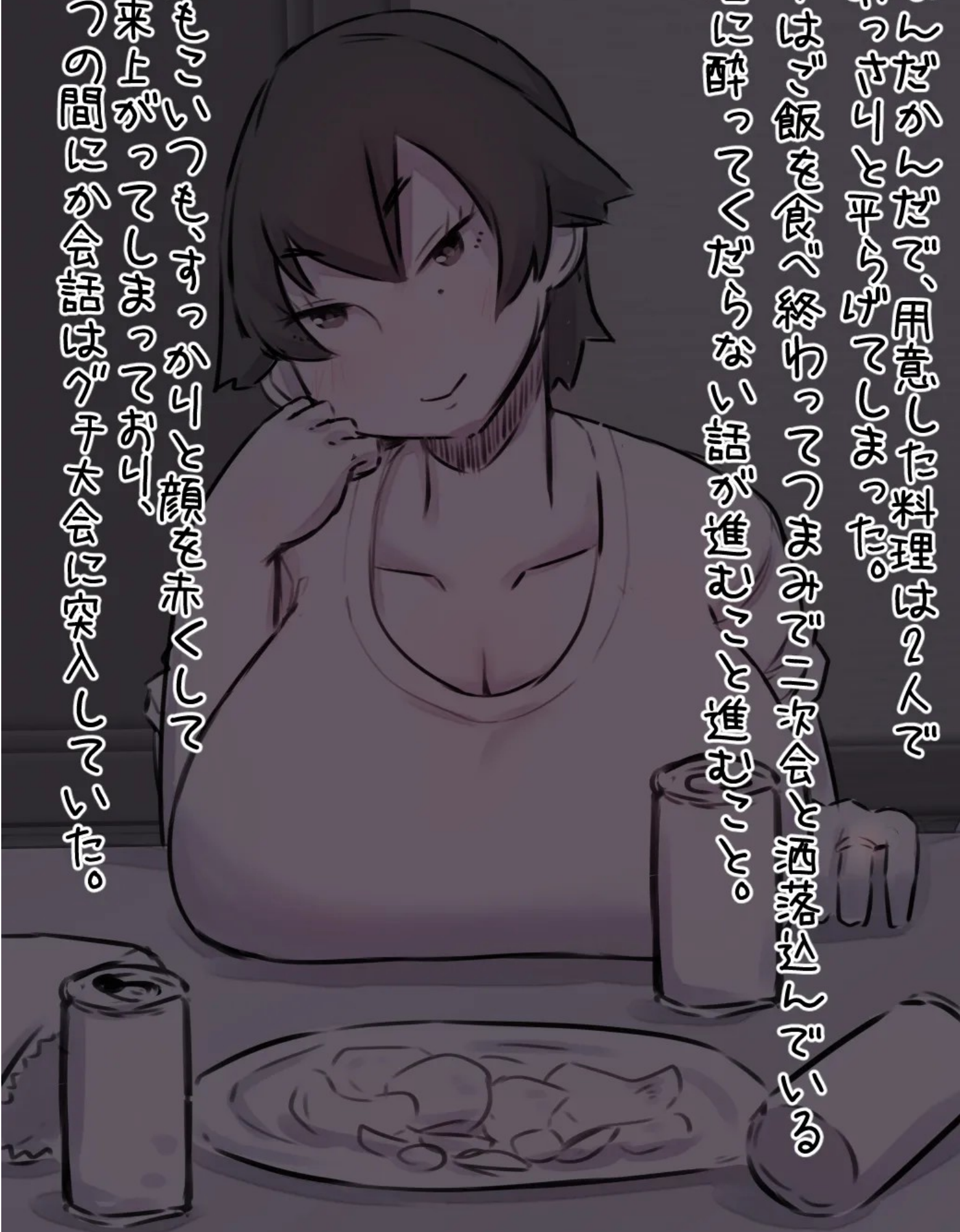
面倒くさいので
それ以上何も言わずに、家に招いた。



なんだからで、用意した料理は2人で
あっさりと平らげてしまった。

今はご飯を食べ終わってつまみで二次会と洒落込んで
酒に酔ってくだらない話が進むと進むと。

俺もこいつもすっかりと顔を赤くして
出来上がってしまった。いつの間にか
会話はずか大会に突入していた。



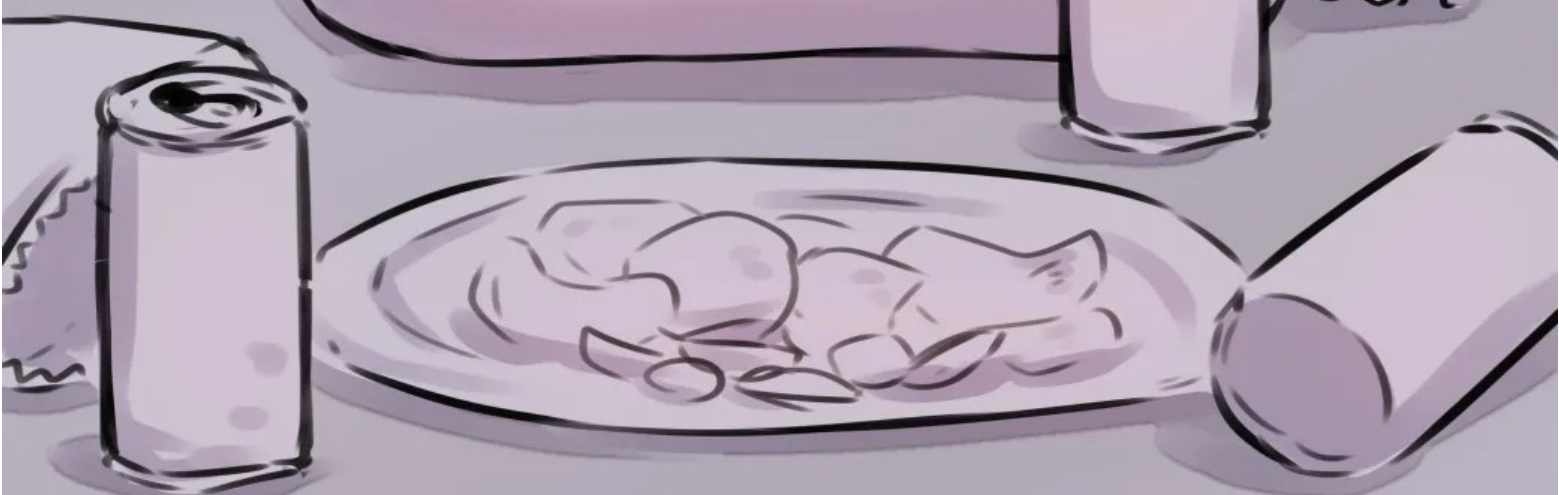
でさ、最近信也のやつさ
夜のお相手
してくれないんだよねえ

などという、唐突なカミングアウトに

やめろや！

知り合いのそんな話
想像したくないわ！

と、言うしかなかった。



急にシモの話振ってきて、相変わらずガサツな奴だ。
実際、知り合いの「きういう」ことなんぞ
色々と普段のイメージが崩れるので考えたくない。
だがしかし……

視線を下げると、大きな胸が
どかんとテーブルに乗っかっている。

ふだんは意識していないが、やはりでかい。



こいつが急にシモの話振るからか、
ふと妄想してしまった。

こいつはセックスの時、
どのように乱れるのだろうか？

この巨大な胸を揺らしながら、
どんな乱れた顔をして…



思えば俺らが高校の後半くらいから、
急にこいつの胸が大きくなったという記憶がある。

信也とこいつが付き合いだしたのはそのころだったか。

あのころから、こいつらはやっていたのだろうか？

信也はこいつの胸を揉みしだきながら
思い切りちんこを出し入れして……

勝手に想像して、何とも言えない、複雑な気分になる。



信也さー一生懸命、
優しくしてくれるんだよー

ちよっとちよっちはいけど

ま、他と比べたことないけどねー

と言いながら、カラカラと笑う。

…俺は何を聞かされているんだ？



あ、確かに、一緒に風呂入ったときとか
ちらっと見えただけど

……ってかきう言ってるやんかって



でも今私はお預けを食らっているのだった！

この自慢のボデーが疼くわー

ゆさりゅさりゅ

むにゅにゅ

と言いながら、胸を強調してくる。

テーブルの上のバストがゆさりと揺れる。



胸の谷間から熱気がむわっと
上がった気がした。

見知った悪友の、知らない性的な仕草に、
俺は生唾を鳴らしそうになり……我に返る。

むわっ

……いつ相手に？

ダメだ、俺も……いつも
飲みすぎているようだ。



あ、お前すげえ
ちんこでかいらしいじゃん！

信也に聞いたぜ！

と、唐突に億弁もなく言い放ち、
さっきまで考えていた邪な気持ちは一
発で振り払われた。

彼女もいないだろうし

宝の持ち腐れだな！

と、更に追い打ちをかけてきやがる。



・・・お前、本当にガサツだな

と、俺は言い返すしかなかった。

はははは！

こいつはどこまでも朗らかに
笑い続けていた。



ふと、また俺は視線を胸に向けてしまった。
「ははは」とこいつが笑ったびに、
テーブルの上の胸が
ゆさゆさと揺れている。

すぐに手が届くところに
柔らかそうな乳房が。

また生唾を鳴らしやうに
なってしまった。

ゆさっ

ゆさっ



お？

お？

私のおっぱい
見てるう？

ムラムラするのう？

触るう？

うりうり！

まずい、視線に
気づかれたようだ。
殴りたくなる
ふふん
ような顔をしながら胸を
強調してくる。

からかっていやがる。。。。

むにゅ

むにゅ



うわーめっちゃくちゃに
揉みしだきたーい

と棒読みで返しつつ、視線を顔に戻す。

彼女の顔は酒で赤らめ、
完全に出来上がって
いるように見えた。

心なしか、息を荒くしている……？

気のせいだよな……？



こいつ相手に少しでも
ムラムラムしてしまっただけなのに
敗北感を感じつつ、

話題を変えながら
酒の席は進んでいった。



A woman with short dark hair is lying on her back on a bed. Her hands are clasped behind her head, and her eyes are closed. She is wearing a dark-colored long-sleeved shirt and light-colored pants with a thin belt. The scene is dimly lit, with soft shadows on the bed and pillows.

数十分後。。。

こいつは酔い疲れて、人のベッドでござりと寝転がってしまった。
こういうことは初めてではない。
ただし、そういう時は信也も一緒だった。

しかし、変な話をしたからか、さっきから体の熱さが収まらない。
具体的に言うと股間が熱い。

油断すると股間がギンギンになりやうな衝動を必死で我慢していた。



今まで「女」として意識していなかったっていう、
たまらなく「女」として見てしまっている自分がいる。

さっきさっいつと変な話をしてしまったせいだ。

急に信也とのセックスの話をしだしたり、
自分の乳をこれみよがしに強調したり…。

ん…

わざとか？誘っているのか？
と勘ぐってしまおう。

改めて、寝かせるこの一瞬を見下ろす。

見た目通り、柔らかかきうで、大きな胸、
服からちらりと見える少し肉が乗ったお腹、
肉感がありきうな太もも。

んん♡

んん♡

んん♡

んんこのすげうてがいやらしく見えてしまう…
と、きうまで考えて我に返り、いかんいかんと頭をリセットする。

さて、酔いつぶれたっいつはどうするか。

信也にでも連絡して引き取りに来てもらうか。
というかあいつは夜勤中だけか、などと考えていると、

ねえ

とか細くも艶っぽい声が聞こえ、どきりとした。

寝ていたと思っていたのだが、どうやら起きていたようだ。



信也に、今日はここに泊まっていくと伝えて…

って泊まる気かよ！仕方ねえな

突然の「泊まる宣言」に少し動揺するが、悪態をついてぐまかした。

泊まらせること自体は初めてではない、その時は信也も一緒だが。流石にベッドはこいつに貸して、俺はソファで寝るとするか。

夜風にあたるため、
ベランダに出てから
信也のスマホに連絡をした。

夜勤中とのことだが、電話に出てくれた。

信也は申し訳なやうな声で
「迷惑かけて本当にごめん。
よろしく頼むよ」
と返してくる。
相変わらず良い奴だ。

今度は3人で飲む約束をしつつ、
電話を切った。

今日の俺の寝床はどうしようかと考えつつ
ベッドから戻った。



ヤンには...

あられもない、悪友の姿があった。



悪友は静かに吐息を漏らしながら、
こちらを薄目でじっと見つめていた。

ジーンズを下ろし、
真っ白いショーツを露わにしながら、
本人は何も言わない。
ただ見せつけるままだった。

むわっ

俺は、激しく興奮していた。

見知っているはずの悪友が、
うっすらと汗をにじませて
いやらしい匂いを漂わせている。

期待に満ちた視線で、
何かを待っていた。

むわっ

むわっ

むわっ

ふゝ…

ふゝ…

俺は悪友のその姿に
ズボンをパンパンに膨らませ、
興奮して激しく息を吐き出していた。

は
っ
っ

は
っ
っ

ねん

して…

お願い…

ふっ
ふっ
ふっ

悪友は吐息を漏らしながら、静かにおねだりする。



俺は何も言わず、
息を荒げながらズボンを下ろし、
性器を露出させる。

♡

ふっ
ふっ
ふっ
ふっ

ぽるん

ふっ
ふっ
ふっ
ふっ

ふっ
ふっ
ふっ
ふっ

屹立したそれを見て、彼女の目が変わる。

むわあ…

興奮した、期待に満ちた目をして、
俺の屹立した性器をじっと見つめていた。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

もはや俺は、こいつを友達として
見る事ができなかった。

ただ一匹のメスとして認識して、
すぐにでもこいつの穴にぶち込みたい。

こいつも、今すぐ交尾したいという、
淫狼な目でこちらを見つめていた。

ふうっ！

ふうっ！



白いショーツを強引にずらすと、
人妻とは思えない、綺麗な性器が丸出しになり、
むわっとした熱気と、尿の匂いを感じた。

ふっ
ふっ
ふっ

むわぁ♡

はっっ！

はっっ！

普段のこいつのがサツな顔を思い出し、
そのギャップに興奮を覚え、更に息を荒げてしまった。

俺は頭を真っ白に塗りつぶし、
一匹のメスに思いつきり挿入した。

あ

あ……？

びん

びん

あ……♡

あ……♡

びん

俺のちんこは「ずぶずぶ」と抵抗されることなく、
メス穴に入り込んでいった。

はあっ♡

ずぶ
びん

ずぶ
びん

ああ♡

ちんこが腔内にすっぽりと収まり、
俺はあまりの興奮と気持ちよさに、息を荒げる

あゝ♡

お♡

お♡

おほお♡

何より、人妻であり、悪友のこいつと
セックスしているという
状況に背徳的な興奮を覚えていた。

はああ……

みち♡

みち♡

みち♡

あ……

あ……

お♡

ねえ♡

動かしてよお♡

ちんちん♡

んん

（お）

はん

はん

お♡

んん

めめちちくちちにしてん♡

快感を我慢しながら、絞り出すように
懇願してきた。



その懇願する声で、俺の頭は真っ白になった。
遠慮せずに、獣のように出し入れを繰り返す。

ほおおおお♡

ほおおっ♡

お♡

んおお♡

ぶるんっ♡

ぶるんっ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

下にいるメスは嫌がるやぶりも、
痛やうなやぶりもなく、メス声をあげている。

あの幼馴染が、獣じみた声を上げて
だらしない顔をして思い切り喘いでいた。

ま♡待ってん♡
まっ♡てっ♡てん♡

お♡お♡お♡お♡

知ら♡しらない♡
こんなの♡しらない♡

出し入れするたびに強烈な締め付けと
快楽が俺を襲い、気持ちよさに声を上げてしまう

ふー！

うおおお♡

とちゅっ♡すちゅっ♡とちゅっ♡

すちゅっ♡

とちゅっ♡すちゅっ♡

はああお♡

きんぎもちいい♡

ぶるぶると、服に包まれた大きなバストが
いやらしく揺れ動く。
ブラジャーをしているため、激しく揺れてはいない。

ああ♡

届いてるよぉ♡
奥までん♡あ♡

は♡

は♡

は♡初めてん
お♡あああ♡
すごいよぉお♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

ずちゅ♡

あの乳房を思い切りもみしだきたい
衝動に駆られつつ、今は出し入れに集中する。

段々とメス声が甲高く、より獣じみてきた。
もう絶頂が近いことが見て取れる。

ああ♡
ああ♡

だめえ♡

はっ

はっ

はっ

ああああ♡♡♡
いくう♡
いっっちゃうよああ♡

ここまで乱れてくれたことに
悦びを思いつつ、俺はこいつを
思い切りイカせるため、思い切り奥に突き刺した！

はああー！

とちゅっ♡

とちゅっ♡

とちゅっ♡

とちゅっ♡

ふうう！

イけ！
イけ！

ふ、ふ
あ あ
あ あ
♡ あ
あ あ
あ あ
あ ♡
♡

びん

ひん

は

は

ひ
v<
hv

びん

いい
っ
てる
よ
お
お
お
お
♡

お♡お♡お♡お♡お♡お♡

びん

部屋の響き渡る絶頂の喘ぎ声が、
こいつの満足感を表していた

だらしない顔をさらしながら、
びくびくと痙攣する悪友は
知らない顔をしていた。

うあ♡ああ♡

あ♡あはあ♡

が

が

ああ♡

が

ふあああ♡

いったばかりの腔穴はぎちぎちと
俺のちんこを締め付け、離す気配がない。

が

が

ちんちん

絶頂をキめながら、
更におねだりするような、
期待するような目で俺を見ていた。

あふ♡
ふう♡

ん♡

ん♡

まだ全然し足りないという目だ。
俺もまだイっていな。ちんこはギンギン猛っている。
俺は声を荒げながら、続ける決心をした。

ふう〜！

ふう〜…

ふう〜…



俺は性器を繋げたまま、
強引に上着をめくりあげた。

あ……♡

ゆ……さ……り……

ショーツと同じ、白いブラジャーに包まれた、
巨大な胸が顔を出した。



先ほどから悪友は、嫌がるやぶりも見せず、
ただなすがままにされている。

それどころか、これからすぐに次のセックスが
始まると期待し、息を荒げ始めた。



悪友の全身から、
甘く、淫らな匂いが漂っていた。

そしてその顔は期待に満ちていた。
強引に、めっちゃくちゃに犯されることを。

むわっ

むわっ

むわっ



俺は、今日の前にある、
いやらしく実っている
乳房にゆっくりと手を伸ばし

あ……♡

あ……♡

ドキ

ドキ

ドキ

ふっ

ふっ

ドキ

ドキ



強引にブラジャーをずらし、
握りつぶす勢いで、
乳房を思い切り
押しつぶかみにした。

んっ
んっ
んっ

はっ
はっ

ふあああ
あああ

瞬間、悪友は顔を
仰け反らせながら、
歓喜の声を上げた。

ぎゅ
ぎゅ
むっ
うっ

握る力を強め、
乳首をぐりぐりとなると、
更に声のトーンが
上がっていった。

ん♡ん♡
ん♡ん♡
ん♡ん♡

お♡
お♡
お♡
ち♡ち♡
ち♡ち♡
さ♡る♡
る♡る♡

痛がっている声に
隠せもできない
悦びのトーンが混じっていた



乳房を強引に揉みしだきながら、同時に膣穴の出し入れを開始した。

お♡んおお♡
おおお♡おお♡

ん♡ひ♡ひ♡
ん♡ひ♡ひ♡

ひ♡♡ひ♡
ひ♡あ♡あ♡

悪友は胸と膣穴両方同時に攻められ、もう取り繕うこともできずに下品な喘ぎ声を上げ始めた。

ぎゅむ♡

ぎゅむ♡

ぎゅむ♡

す♡ち♡ち♡

は♡ち♡ち♡

は♡ち♡ち♡

は♡ち♡ち♡

は♡ち♡ち♡

す♡ち♡ち♡

俺は容赦なく攻め続けた。
形が変わるほど
胸を揉みしだき
乳首をギリギリとひねる。

あ♡あ♡
ふわあああ♡
あああ♡♡

ガク

しゅべ♡
しゅべ♡いよおお♡

もっと♡
もっと♡とおおお♡

こいつも、それを望んでいた。
攻める度に悪友の嬉しそうな
喘ぎ声が部屋中に響く。

ガク

ガク

ぎゅむう♡

ぎゅむう♡

あああああ♡

ずちゅん♡

ずちゅん♡

ずちゅん♡

ずちゅん♡

あ♡

うああああ♡

こいつの膣の締め付け、
胸をもみほぐす感触、喘ぎ声、
すべてが俺に快楽を
伝えてくる。

俺も我慢できず、
声を抑えきれなかった。

あ♡あうう♡

お♡

お♡

びん

いく♡いく♡

またいくううう♡

何度もおおお♡

いつてるよおお♡

何度も出し入れした

ちんこはもう耐えられず、

射精寸前になっていた。

びん

びん

びん

むにい

むにい

むにい

ずちゅ

ずちゅ

ずちゅ

ずちゅ

ずちゅ

お♡

おおおおお♡

ふおおおおお♡

腔内に出してしまう前に
引き抜こうと思った矢先

い♡い♡い♡よお♡

中に出して
いいよお♡

く♡く♡すりい♡
飲んでる
からあ♡

出してん♡
好きなだけ私の中にい♡

私の中をお♡
いっぱい
してんえ♡♡

がッ

がッ

はっ

はっ

はっ

はっ

がッ

がッ

キッ

キッ



その甘えるような
おねだりに、俺の意識は
真っ白になった。

はふ♡はふうう♡

あふう♡

あああ♡

あああ♡

しゅご♡

しゅごよおお♡

だしてええええ♡♡
中にだしてえええ♡♡

ただただ腔奥に思い切り
射精するため、めちやくちやに
腰を打ち続けた。

はっ♡

はっ♡

はっ♡

どちやっ♡

どちやっ♡どちやっ♡

どちやっ♡

どちやっ♡

はああああ♡

ほおおお♡

もうイクう♡

出すぞー！
だすぞお♡

望み通り、最奥に、子宮の中に
思い切り射精した。

ほお♡ほおおお♡
おほおおお♡

ガク
ガク

おほ♡
ほおおお♡
お♡おおおお♡

その射精は俺の体の奥から、
すべての快楽が流れ出るような
感覚だった。

ガク

ガク

ガク
ガク

ガク

おおおおおお♡♡

びゅる
びゅる

びゅる
びゅる

はあおおおお♡♡



乳房を握りしめながら、
腔奥にどくどくと
種を流し込む。

お♡ほお♡

せうしい♡
入ってくる♡

お♡
お♡
お♡

あったかいよお♡

悪友は腔内で精子を
受けとめ、ただただ
歓喜の声を上げ続けた。



は♡

はああ♡

は♡
は♡



悪友は起き上がると、
興奮が抑えきれない様子で
顔を近づけてきた。



艶めかしく、生暖かい
吐息が顔に当たってる。

さっき俺が出した精液が
ゴブゴブと腔から溢れてきた。

ん♡

は〜は〜

こっ
こっ

こっ
こっ

こっ
こっ

そのまま両手をこちらに伸ばし、
ぎゅっっとして体を押し付けてきた。

巨大な乳房が体に押し付けられ
ムニムニとした感触が伝わる。

ぎゅっっ

むにゅ

むにゅ

むにゅ

その胸が押し付けられる感触に酔いしれていると、
ふいに顔を近づけられた。

んちゅ♡
んぶう♡
れろ♡
ちゅぽ♡
れろ♡
ちゅぽ♡
れろ♡

顔は止まることなく接近し、
そのまま唇を貪ってきただ。

ついはむような優しいキスじゃなく、
こちらを飲み込んでしまいやうなく、
激しいディープキスだった。

あぶう♡

ちゅぶ♡

はあ♡

ちゅぶう♡♡

舌を伸ばし、こちらの口内を
激しくまさぐって来た。

大量の唾液が流れ込み、
ぐちゅぐちゅと音を立てる。



負けじとこちらも舌を絡め、
悪友の口の中に侵入し、思い切り貪る。

んっ!?

んぷ♡

んぷっ♡

ぢゅるん

悪友は驚いた拍子に一瞬舌を止め、
くぐもった声を出す

そのまま互いに口の中で舌を絡めて
ぐちゃぐちゃとねぶり続けた。

んんん
♡ふん♡
んう♡
ん♡
♡

あぶ♡

んん
ぶぶ♡
う♡
んぶ♡
る♡
れる♡

唾液を互いに流し込んで交換し、
溢れた唾液は滝のように
口から滴り落ちた



俺はキスしたままの姿勢で、
不意打ちのように腔に挿入した。

ん!?

んんん
んんん
うう
♡
♡

ちゅる

ちゅる

ちゅる

んぶうう♡♡

悪友は突然の刺激に、口を離し、
声を出そうとしたが、
俺は唇を押し付けて逃がなかった。

ぐにんっ

口を貪ったまま、抱き合ったまま、
激しく膣穴に性器を出し入れする。

ん♡

ん♡
ぶ♡
う♡
♡

ん♡
ん♡
ん♡
♡
♡
♡

あ♡
ぶ♡
ん♡
♡
♡
♡

びん♡

びん♡

ち♡
ち♡
♡
♡

ち♡
♡
♡

キスの快感と挿入の快感で、
お互いの口から数倍の唾液が流れ出てきた。

ぶるん♡

ずん♡
ずん♡
ずん♡
ずん♡

ずん♡
ずん♡
ずん♡
ずん♡

ずん♡
ずん♡
ずん♡
ずん♡

ぶるん♡
ずん♡
ずん♡
ずん♡
ずん♡

俺たちは夢中になりながら、
ぐちゃぐちゃと唾液を交換して
交尾をし続ける。

あん
ぶ♡
♡

んん
3" 3"
♡ ♡
♡

h
♡

T T
 < <
 3 3
 3

~~~~~♡~~~~~

悪友の顔はもう絶頂寸前のそれだった。  
俺ももう限界を迎えていた。

すんず

ずん

ずんづ

すん

すん♡

ずん



舌を絡ませて、体を抱きしめあったまま、  
本日2度目の子種を腔奥に流し込む。

ふうふう♡♡  
ふ♡ふう♡

んぶふう♡  
ふう♡ふあ♡

んぶ♡

んぶふうふう♡♡

びん

びん

びん

悪友も同時に絶頂を迎えたようで、  
びくびくと腔が脈動させて肉棒が締め付けた。





精液を出し切った後、  
ゆっくりと口を離し、  
はあはあと息を整える。

は♡あはあ♡  
はあ♡はあ♡

お願い♡おねがぁい♡  
ねん♡もっとなしたい♡  
してん♡してん♡ねん♡

悪友は何度も絶頂したにも関わらず、  
とろんとした目からはまだ情欲の火は消えていない。  
口からは甘えきったおねだりの声が響いた。





悪友は  
興奮したに俺を押し倒してきた。

屹立した男性器に顔を近づけ、発情しきった顔で  
それを見つめていた。

は  
は

は  
は

は  
は

は  
は



悪友は男性器を前にして発情しきった顔で  
それを見つめていた。  
息を荒げさせ、口から唾液があふれさせている。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

は

は

は

おあずけをくらった犬のような顔で  
俺の口から命令されるのを  
待っているかのようだった。



俺はそれをを見て察する。  
そして一言命令する。

しゃぶれ

！

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



命令を耳にすると、悪友は嬉しやうに口をすぼめ、ぱくりとちんこをくわえこみ、下品な音を立てて、バキュームし始めた。

んん♡

♡

♡

ぽぐり♡

ああああ♡

ああああ♡

ああああ♡

ちんこを吸い尽くされやうな感覚に、俺も快感の声を上げざるを得なかった。



そのままぐぷんと、  
根元までちんこを  
飲み込んでしまった。

しるるるっ♡

ん♡

ん♡

ぢゅ♡

ぢゅ♡

おおおお♡

あ♡

おおおお♡

ぢゅ♡  
ぢゅ♡

ペニス全体が生暖かく、  
ぬるりとした刺激に包まれる。  
初めての感覚に脳が蕩けやうになっていた



下まで飲み込んだら  
今度はゆっくりと、丹念に  
ペニスを口から出していく。

ん♡ん♡♡

んじゅんじゅぶっ♡♡

ずるると、吸い取りながらのフェラは  
俺の中から無理やり快感を引き出していった。

あああああ♡

は♡は♡  
あああああ♡

ちゅ♡  
ずる♡  
ちゅ♡  
ずる♡  
ちゅ♡  
ずる♡



目の前でじゅぽじゅぽと、  
下品な音を立て、  
親友の妻が、俺のちんこを  
夢中でしゃぶっていた。

んんんは  
ぐぐ♡む  
う♡んう  
う♡ん♡  
♡♡

んん  
ん♡  
ん♡  
♡♡

んぶん  
♡うぶう  
ぶ♡う  
♡♡

はッ♡

はッ♡

ぢゅぽ  
ぢゅぽ  
ぢゅぽ

ぢゅぽ  
ぢゅぽ  
ぢゅぽ

悪友は何度も何度も  
ちんこを丹念に飲み  
ずるるうっと引き抜  
繰り返す。

あぶ♡

h h  
h h  
h

れれれ  
ろろる  
♡うれ  
♡♡る  
♡

んん  
3333  
ん♡  
33  
う  
♡

ちんこはよだれと我慢汁でべちやべちやになっただけ。

3333

ちゅるるる

ちゅーちゅー



悪友はそこで思い出したように  
動きを止める。  
その時少し意地悪やうな  
顔をしたのを見逃さなかった。んき

んき

んき

んき

んき

んふ〜♡

んふ〜♡

んふ〜♡

体を少し動かすと……。んき



巨大な乳房を俺の体にむにゅと乗せ、  
ペニスを挟みこんだ。

んふっ♡

♡

♡

ペニスは豊かな胸にすっぽりとうずもれ、  
今まで以上の快感が俺を襲った。

ふっ♡

ふっ♡

ふっ♡

むにゅ

むにゅ



そのまま激しく胸を上下に動かして  
俺のちんこから精液を絞り出せんと  
締め付ける。

ん  
ふう♡

ん  
ん  
ふう♡  
ふう♡

ん  
は  
ふう♡  
ふう♡

ん  
ん  
ふう♡  
ふう♡

胸だけでなくフェラも再開し  
両方の快楽で俺は情けなくも  
喘いでいた。

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

すい♡

すい♡

すい♡

すい♡

おお♡

おお♡

おお♡



そのまま口と乳房での  
搾精行為は続いていく。

んちゅぶう♡  
んぶ♡んぶ♡

ぢゅ♡  
ん♡ん♡  
る♡う♡♡

ん♡ん♡  
ぶ♡う♡う♡♡

その激しい攻めに、  
俺はあっという間に限界を迎えてしまいやうだ。

ちゅ♡  
ちゅ♡

お♡  
ちゅ♡

ちゅ♡  
ちゅ♡

れ♡  
ちゅ♡

ちゅ♡  
ちゅ♡

す♡  
ちゅ♡

出るううう♡

お♡

す♡  
ちゅ♡

は♡は♡は♡

す♡  
ちゅ♡



そしてとうとう限界を迎える。そして  
大量の精液が、悪友の喉に噴射される。

んんうゝ♡

んんんゝ♡

悪友は待ちに待ったという歓喜の表情で、  
精液を逃さんと、口いっぱい受け止める。

すすすすす♡

はあはあはあ♡



爆発するような射精は続き、  
悪友はそれを夢中でぐくぐくと  
飲み干していく。

んんん  
ぐぐぐ  
♡♡♡  
んんん  
ぐぐぐ  
♡♡♡  
♡

んん  
ぶぶ  
♡

飲みきれなかった精液が  
口の中から溢れて出ていた。





最後の一滴まで飲み込んだ後、  
ようやく性器を口から離した。

口から離しても愛おしそうな目で  
それを眺めていた。

あはあ♡

はああ♡

たくさあん♡  
せうきい、  
おいしかったあ♡

へん♡えへん♡

そのいやらしいメス顔を見て、  
ほんとに俺の中で精子が  
作られていくのを感じた。

はっ  
はっ

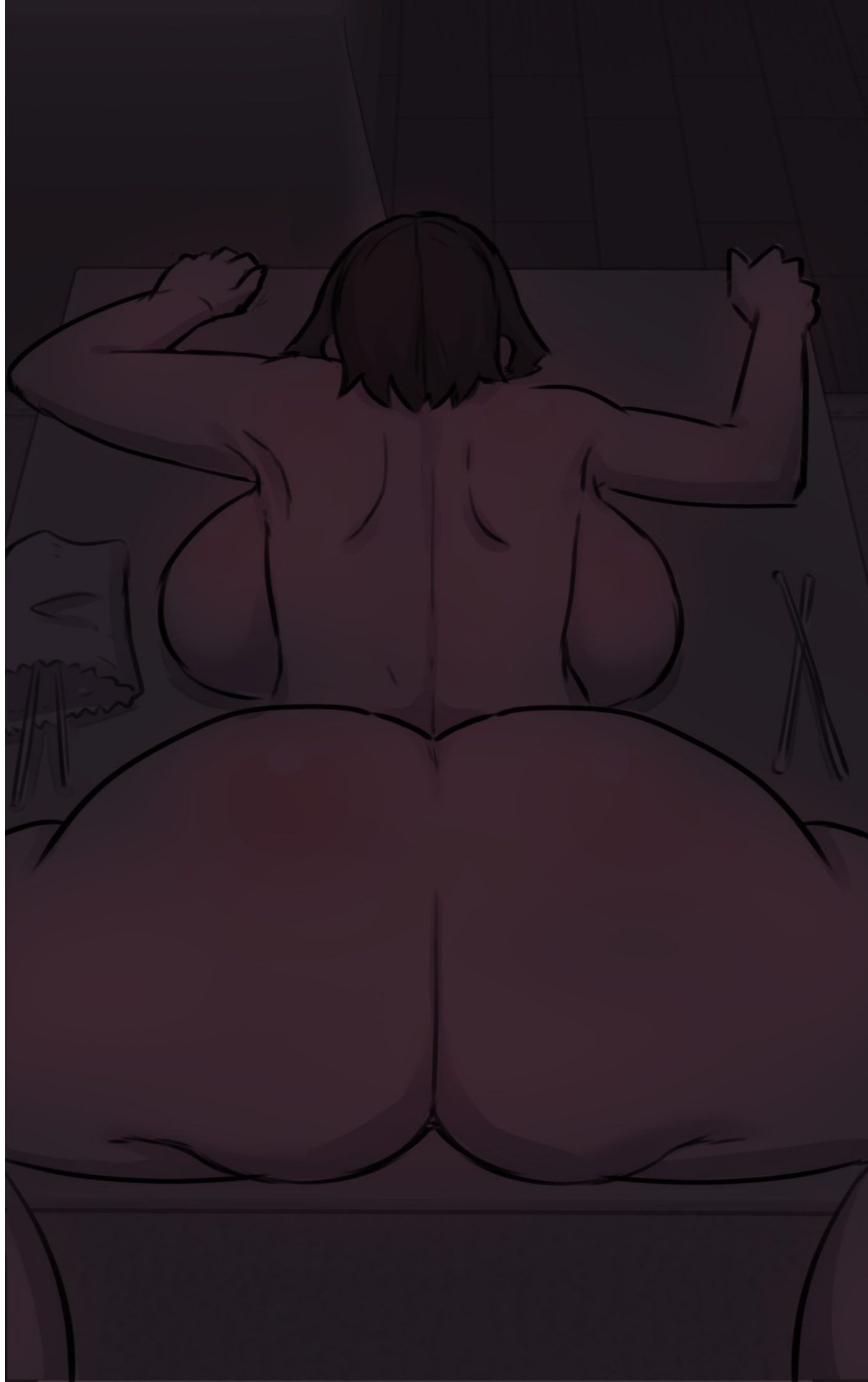
はっ  
はっ

はっ  
はっ

はっ  
はっ







俺は強引にテーブルに彼女の体を押し付けた。

衣服を全て脱ぎ捨てて一匹のメスになった  
あられもない姿がそこにあった。





さっきまで二人で酒を囲っていた  
冷たいテーブルに、  
彼女の豊満な体が押し付けられている。

彼女の豊かな乳房がぎゅむっとテーブルに  
押し付けられ、歪で淫らな形に変形した。

むにゅ

むにゅ

そして、形のよい尻が煽情的に  
こちらに向けられていた。

俺はその姿に情欲を抑えられるはずもなく、

ふっ

ふっ

ふっ

むわっ

むわっ

ふっ  
♡

ふっ  
♡



後ろから、一気に、  
彼女のメス穴に男根を突き入れた。

ほ♡

ガク

ガク

ガク

ガク

ガク

おお♡  
おお♡

おお♡♡♡

ガク

べっぴん♡  
ちゅん♡  
っ♡



彼女は全身びくびくさせながら、  
×の嬌声を上げていた。

お♡

おお♡  
おお♡

お♡

おお♡  
ほお♡

びく

びく

びく

びく

びく

びく

びく

ぎゅ♡  
ぎゅ♡

ぎゅ♡  
ぎゅ♡

ふ♡

お♡

おお♡



そのままがむしやうに  
に腰を何度も打ち付ける。

はへん♡

はへん♡

はふう♡

あ♡  
あぐ♡

はへん♡

ぱんぱんと腰を打ち付けるたびに、  
彼女のメス声が無霊する。

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

ずん♡

ずん♡

ずん♡

ずん♡

ずん♡

あ♡

あ♡

あぐ♡



両手で尻をがっちり拘束して、  
射精するために無理やりに腰を受け付ける。

はぁ♡あぁぁ♡  
あぁあぁは♡♡  
あぁ♡あぁぁ♡

ん♡

ふぐう♡

あぁぁ♡  
あぁあぁぁ♡

まるで、悪友を自分の所有物にしている、  
征服しているような気持ちだ。

ガク

ガク

ガク

ゆさっ♡

ゆさっ♡

ばっちゃん♡

ばっちゃん♡

ばっちゃん♡

おお♡

ほぉおぉお♡

ばっちゃん♡



普段はがさつで勝気な悪友は、  
ただ今は俺に拘束されて、  
なすが儘にメス声を上げる  
獣に成り下がっていた。

んぐ♡  
んぎゅう♡

イク♡  
イク♡

ん♡イク♡  
またイク♡♡

その痴態を見て、  
猛烈な快感と征服感で満たされていた。

びゅ

びゅ

びゅ

どちゅ♡

どちゅ♡

どちゅ♡

どちゅ♡

どちゅ♡

ふ♡

ふ♡

おお♡

おおおお♡♡



な い ひ  
ん っ ♡  
ど て ひ  
も る い  
お う ♡  
♡ う ♡

u  
L  
♡

こひ  
んぐ  
な♡  
の初  
おめ  
♡て  
え  
♡

後ろを向いた悪友の顔は見えないが、

そのメス声のトーンから、  
どのような下品な顔をしているかは  
想像に難くない。

تلاوة

お  
お  
お  
お  
♡

す  
9  
3  
ん  
っ

す  
9  
3  
人

丁  
十  
え  
♡

ほらイケん♡

الماء



メス穴を後ろから犯す具合の良さに、俺はもう射精だった。思い切り子種を植え付けるため、更に腰を打ち付ける激しさを増していく。

ほお♡

い♡イ♡  
イ♡う♡  
何度もお♡

ほ♡

ずっとお♡ってる♡  
きもだいい♡♡  
お♡またイ♡う♡♡

悪友は狂ったように何度もイき続け、そのイき声は更に俺を興奮させてくれた。

ガク  
ガク  
ガク  
ガク

す♡ふ♡ん♡  
す♡ふ♡ん♡  
す♡ふ♡ん♡  
す♡ふ♡ん♡

奥に♡  
精子出すぞお♡

おおおお♡  
出すぞ♡

す♡ふ♡ん♡  
す♡ふ♡ん♡  
す♡ふ♡ん♡  
す♡ふ♡ん♡



最後の一発を加えるため、  
ずるっとなぐり二スを引き抜き...

あ？

あ♡♡

ぐい

ぐい

ぐい

三キ

三キ

ぐい

三キ

三キ

三キ

三キ

三キ

き♡きちちうのお？

すい...♡  
きちちうのお♡♡

ぐい

ぐい

ずる♡  
↓

ふ♡

ふ♡

♡...♡...♡  
♡...♡...♡



お  
お  
お  
お  
お  
お  
お  
お

お  
お  
お  
お  
お  
お  
♡

おれん

で出るう♡  
るう♡  
う♡  
う♡  
う♡

彼女は海老どりにのけどりながら、  
それを受け入れ、いき続けた。



ペニスを引き抜くと、  
割れ目からあふれ出した精液が  
ドロボロとこぼれだしていた。

あ♡

はあ♡♡ びん

せいっばい♡♡  
しいい♡♡

びん

びん

ん♡ん♡♡  
あったかあい♡

びん

びん

びん

びん

びん

彼女はぴくぴくと  
尻を震わせながら、  
いき続けた余韻に浸っていた。

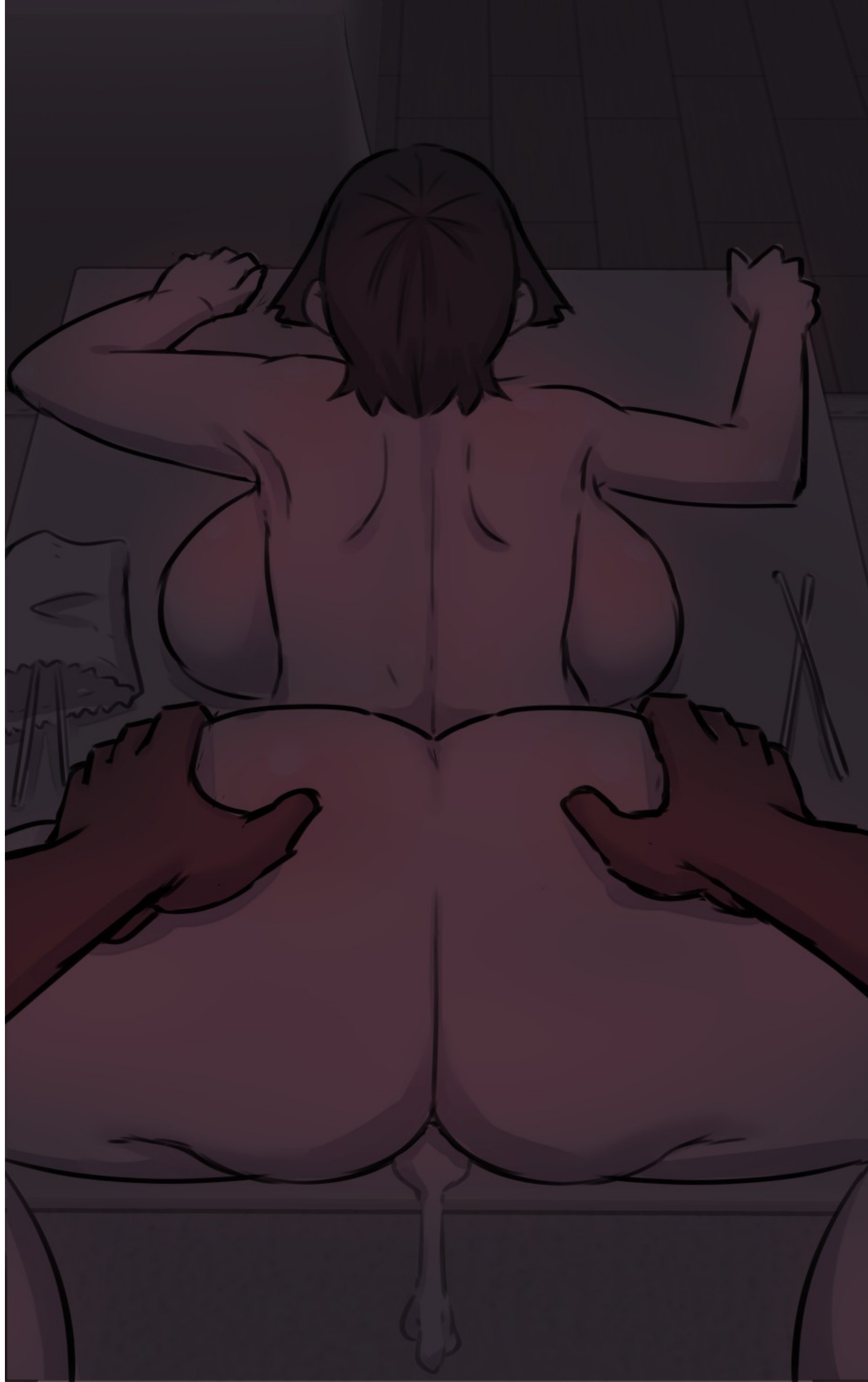
ふう♡

♡♡♡  
♡♡♡

ふう♡

♡♡♡  
♡♡♡





あれから何時間たち、  
何度の交尾をしたかもわからない。





俺は彼女をベッドの上に押したあす。



彼女は抵抗せずがままに横たわり、  
自分の恥部を全てさらけ出した。



呼吸が荒い、醜態をさらしている  
自分に興奮しているようだ。



俺は、ゆっくりと彼女の割れ目に  
亀頭の照準を合わせた。

ぴとり♡

ぴとりと亀頭と割れ目がキスをする。



彼女割れ目から、  
じわりと愛液が流れ、  
俺の亀頭を濡らした。

じわ  
あ



彼女はただただそれを、  
興奮した目で凝視している。

これから思い切り犯される期待に、  
全身を震わせれていた。



何の前触れもなく、  
一気にペニスを奥まで突き入れた。

ズ  
!?

お、お、お

♡♡

しゅんちゅん



入れた瞬間に射精をし、  
彼女の腔穴に大量の  
精液を流し込む。

おごお♡♡  
ご♡お♡♡  
おごおお♡

おおお♡♡  
おごお♡  
ほおおお♡

その強烈な一突きで、  
彼女は絶頂してしまい、  
だらしなく嬌声を上げる。

びん びん びん びん びん びん びん びん







そしてまた射精する。  
彼女の膣内がぐぶぐぶと音を立ってた。

ほ  
お  
お  
お  
♡  
♡

せゝえき♡  
でてる♡  
また出てる♡

お  
お  
お  
お  
♡  
♡  
♡  
♡  
♡

腔に精液を出される度に、  
彼女の悦びの聲が高くなる。

中出しの快感が完全に癖になっているようだ。

が  
ク

が

がく

カク

がク

ガク



まだまだ中出しは足りない。  
もっともっとだ。

ああああ♡♡

また♡またあ♡  
下ってるのにい♡

だめ♡  
だめ♡  
♡

止♡とめえ♡止めてえ♡  
止め♡とめえ♡

俺は自分が満足するまで、  
何度も何度も鋭くピストンし…

ばちゅっ

ばちゅっ

ばちゅっ

ばちゅっ

ばちゅっ

ばちゅっ

がッ

がッ

がッ

がッ

がッ

がッ



何度も何度も中出しを繰り返す。

あああああああ♡  
出てるでてるうう♡

もういっぱいだからあ♡  
あたしのなかあ♡

あふれるう♡  
あふれちゃうう♡





その後...

満足するまで中出しをした後、

ひ♡

ひ♡

ああ♡  
ああ♡

お♡

ずるるうと、  
ゆっくりとペニスを膣から  
引き抜く。

ずる

びん

びん

びん

びん

びん

びん





一度もペニスを  
抜かなかった腔からは、

何度も中出しして  
溜まりに溜まった精液が  
ぷるぷると溢れ出ていた。





彼女が快感で痙攣するたびに  
愛液が噴き出される。

ほ♡

お♡

んお♡

精液と愛液で、ベツドの上に  
べったりとしたグニッを作っていた。





それでもまだまだ夜は長い。







[illegible]

お♡お♡お♡

おほお♡

はじめのうちは  
おのれはじめて  
よおのお♡♡

おほ♡

強引に攻めているのだから、こいつの声は甲高く、心から犯されているのを喜んでいっているように見えた。







何度も何度も下から突き上げられ、  
こいつの顔は快楽に歪み涎を垂れ流し、

(♡えへん♡

お♡お♡♡

(ん♡

(んえん♡

えへん♡へん♡

えふ♡♡

おほお♡

お♡♡♡

ただただ快楽の声を上げるだけだった。





何度も何度も下から突き上げられ、  
こいつの顔は快楽に歪み涎を垂れ流し、

(♡えへん♡

お♡お♡♡

(ん♡

(んえん♡

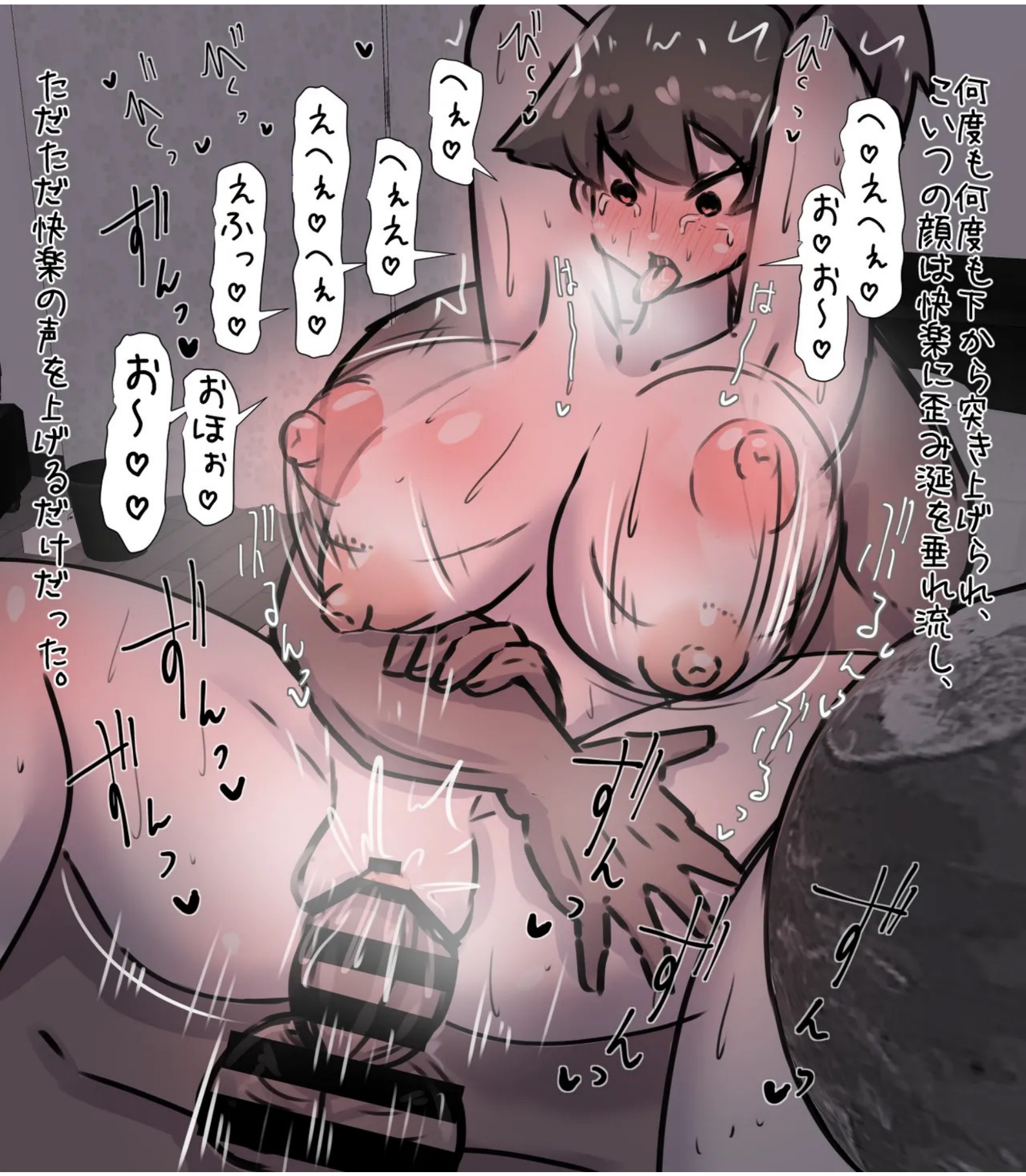
えへん♡へん♡

えふっ♡♡

おほお♡

お♡♡♡

ただただ快楽の声を上げるだけだった。





喘ぎはどんどん大きくなり、攻め続かれた  
肉体は絶頂の限界を迎えていた...



あゝ♡

はぁ♡

ん♡

ん♡

はぁ♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡





そして、体を大きく仰け反らせ、  
痙攣しながら絶頂を味わっていた。



なにやらピクピクしながら絶頂の余韻に  
浸っているようだが、

お…♡

ズン

ズン

ズン

ははは

おお…♡

ははは

おお…♡

ははは

ははは

ちよろろろろろ♡

ははは♡

俺はまだ全然満足していないので…





不意打ちのように、後ろから思い切り胸をこねくり回した。

!?

ふぉぉ♡♡

お♡♡

だめえ♡

おっぱいだめえ♡  
ぎゅぎゅってん♡  
しないでん♡♡

よ♡よわいからあ♡

まだあ♡イってるのにい♡

巨大な胸はどこまでも柔らかく  
指の動き通りに形を歪ませていく。





巨大な胸をこねくり回しながら、  
そのまま思い切り下から突き上げ始めた。

お!?!♡♡

お!?!♡

お♡

ひちめ♡♡

ひちめ♡♡

イっでるう♡♡

まだイっでるのい♡♡

おほお♡♡





乳房と膣、2つの強烈な刺激に、  
今まで聞いたことのない嬌声を上げて  
昂っている。

あゝ♡

おおおお♡

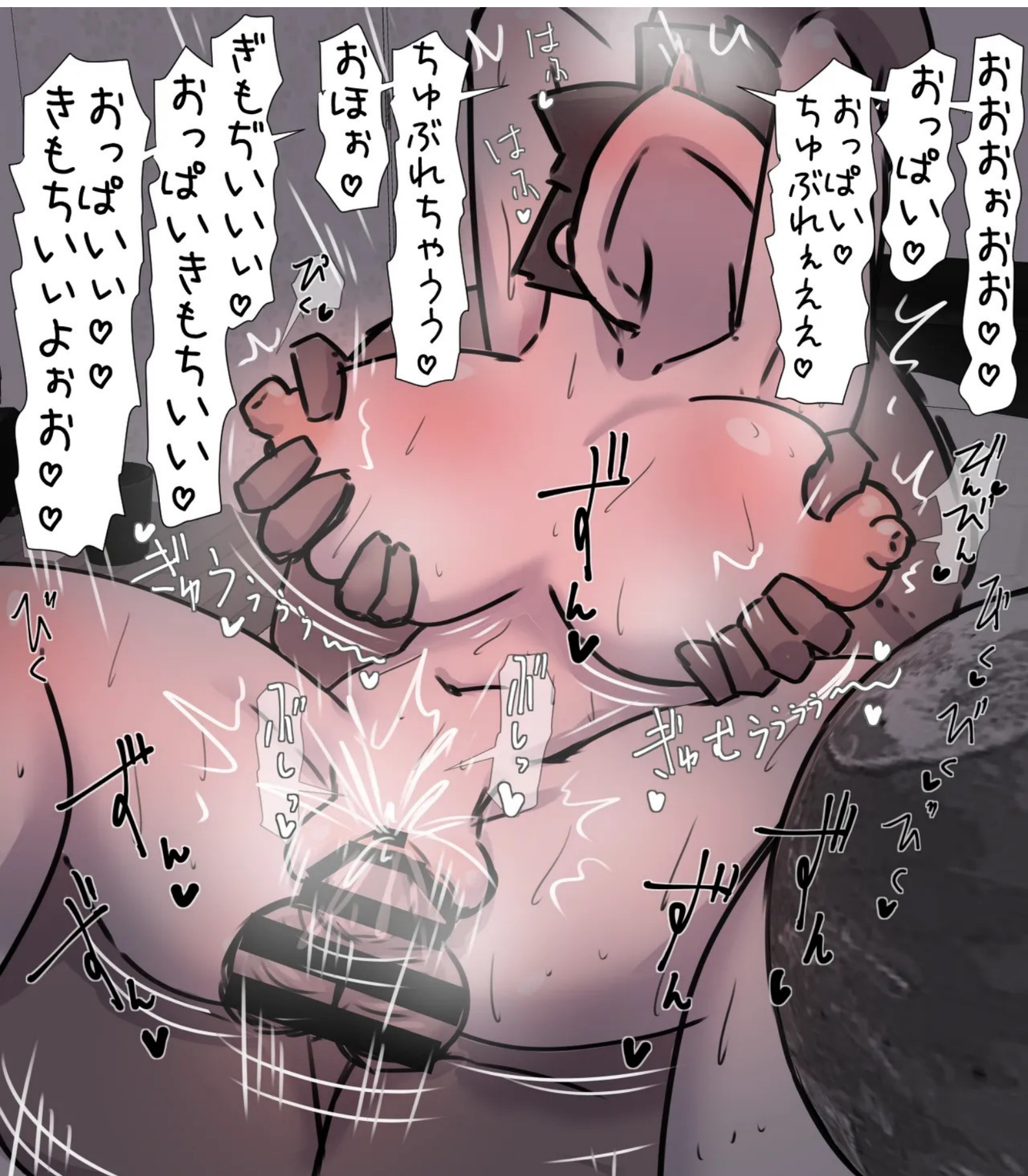
んあ♡

おほおおおお♡♡

ほおおおお♡♡













たまった精液を思い切り噴き出し、  
こいつの腔を満たしていく。

ほおおおお♡♡

お♡♡

おおおお♡♡♡

おおおおお♡

いっぐうぐうぐうぐう♡♡





悪友は体を痙攣させながら

あゝ……♡

あゝ……♡

あ……♡

おほ……♡

あゝ……♡♡

ただただ腔に注がれる精液を受け入れ、  
絶頂の余韻に浸り続けていた……



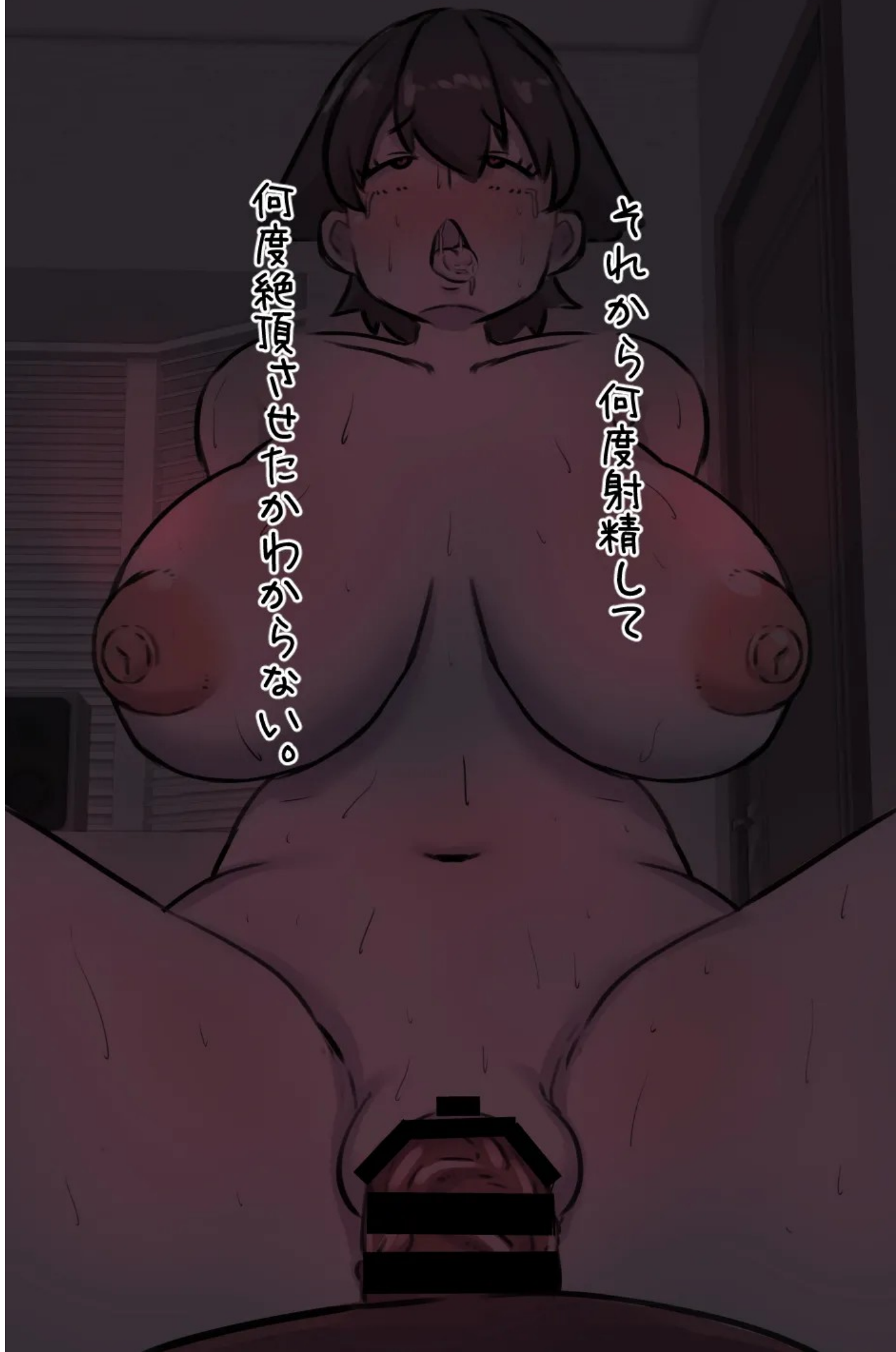


夜はまだ続いていて...。



それから何度射精して

何度絶頂させたかわからない。





悪友は、俺の腰の上で、  
虚ろな目をしながら  
腰を揺らしていた。  
が

ほ♡

あ  
ほ  
あ  
♡

あは♡

ふへふ♡

口の端からは、  
だらだらと涎を  
垂らしっている。

34

いん

は

は

は

は

55

愛

列

すちゅい

すちゅっ

すちゅい

すちゅい

すちゅっ



それでもこいつは  
まだ貪欲に快楽を求め、  
腰を揺らしている。

（ん♡  
びゅんびゅん

えん♡

びゅん

もっと♡  
もっと♡

もっと♡  
しよお♡♡

腰を動かすたびに、  
だらしなく胸が揺れ、  
膣は快楽を貪っていく。

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ぶるん♡

ぶるん♡

とちゅ♡

とちゅ♡

とちゅ♡

とちゅ♡

とちゅ♡



俺も、っいつと同じ気持ちだ。  
何度しても、したりない。  
もっともっこのいつと  
ドロボロになりたい。

もっとお♡

気持ちよくなろお♡

お♡

はっ♡

ねん♡

おねがぁい♡

ほ♡

こいつの体を貪りたい。  
精液を流し込みたい。





俺も、思い切り  
腰を突き上げ、快楽を貪る。

おおおおお♡  
ほおお♡♡  
おおおお♡

がぐ

お♡

ほおおおおお♡

がぐ

がぐ

がぐ

がぐ

彼女は膣奥を強く刺激され、  
体を仰け反らせて  
嬌声を上げて悦んでいた。

がぐ

がぐ

ずんっ

ぷん





俺は焦らすように、  
一拍置いた後…

あは♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡





下からの激しい突き上げに、  
 軀も激しく揺れる。

は  
へ  
♡

はへん♡



はへんっ♡

は♡はへん♡

巨大な乳房が揺れ情動的にいた。カク

ばるん♡

カク

が

ガ

ガク

が

カク

はるん♡

お♡おう♡

すふん

9312

す  
9  
v  
(3)  
ん  
つ v

すいん♡

٧٣

す  
ご  
い  
ん  
つ

す  
3  
2  
2

432

お  
お♡  
ほ  
お  
お  
お  
♡

すいん



悪友の顔は、いきすげで、  
流した涙と鼻水に  
まみれていた。

(♡)

(♡) えあ♡

いく♡

いく♡

何度もお♡  
イっちやっってるよお♡

もう頭の中も

ぐちゃぐちゃに

なっているのかもしれないが、

俺は容赦する気はなく...

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ぶるん♡

ずん♡

ずん♡

ずん♡

ずん♡

お♡

お♡

ずん♡

ずん♡

ずん♡

ずん♡

おおおお♡

ずん♡



下から両乳房を  
ぐいと驚掴みにし  
思い切り揉みしだく。

んぎいーいー♡♡

だめん♡

ガク

おほ♡

おっぱい♡  
おっぱい♡  
あー♡

彼女は刺激に  
耐えられず、  
大きく体をしならせた。

ガク

ガク

ガク

ぎゅーううう

キュン♡  
キュン♡

キュン♡

ぎゅー

ぎゅー

ぎゅー

ぎゅー

ぎゅー



乳房を揉みしだき、  
乳首をつねり、  
そして引っ張る。  
おもちやのように  
雑に扱っていく。

おおお♡

いく♡

びゅん

おっぱいでん♡

おっぱいで  
イってるからあ♡

悪友はだらだらと  
涎を垂らして、  
胸が犯される。  
快楽に溺れていた。





そのまま腔への上  
突き上げ速度を  
上げていく。

だめ♡だめ♡  
これいいじゃない♡  
強くないでんえ♡

ほお♡

お♡

すすののののの  
すすののののの  
いぐののののの  
くぐののののの

ギョム♡

ギョム♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ギョム♡

ギョム♡

ばち♡

ばち♡

ばち♡

ばち♡

はあ♡

はあ♡

はち♡

はあ♡♡♡

はち♡



俺も、もう駄目だった  
腔の具合の良さど、  
胸の感触と。

おおお♡

イク♡

イク♡

がく  
がく

お♡

もうイク♡

来る♡

イクのくる♡

全てが俺に射精を  
促し、もう限界を  
迎える。

ぎゅむ♡

ぎゅむ♡

ぎゅむ♡

ぎゅむ♡

ぎゅむ♡

ずちゅ♡

はちゅ♡

とちゅ♡

とちゅ♡

はちゅ♡ずちゅ♡

とちゅ♡

ほおおお♡♡

出る♡

はちゅ♡

ずちゅ♡

出すぞお♡  
だすぞお♡

ずちゅ♡



か

♡  
♡

か

カク

ガク

かっく

お お  
お お  
お お  
お お

が

カッ

カリグ

おあ  
おあ  
おあ  
おあ  
♡♡  
♡♡  
♡

噴水のよう  
に  
精液が噴射  
され、  
彼女の腔穴  
を浸食して  
いった。  
ガク



今日一番の快感を伴う射精は  
ズブズブと音を立てて、  
悪友の膣内を満たしていく。

お♡

— 34 —

1

1

11

世



方

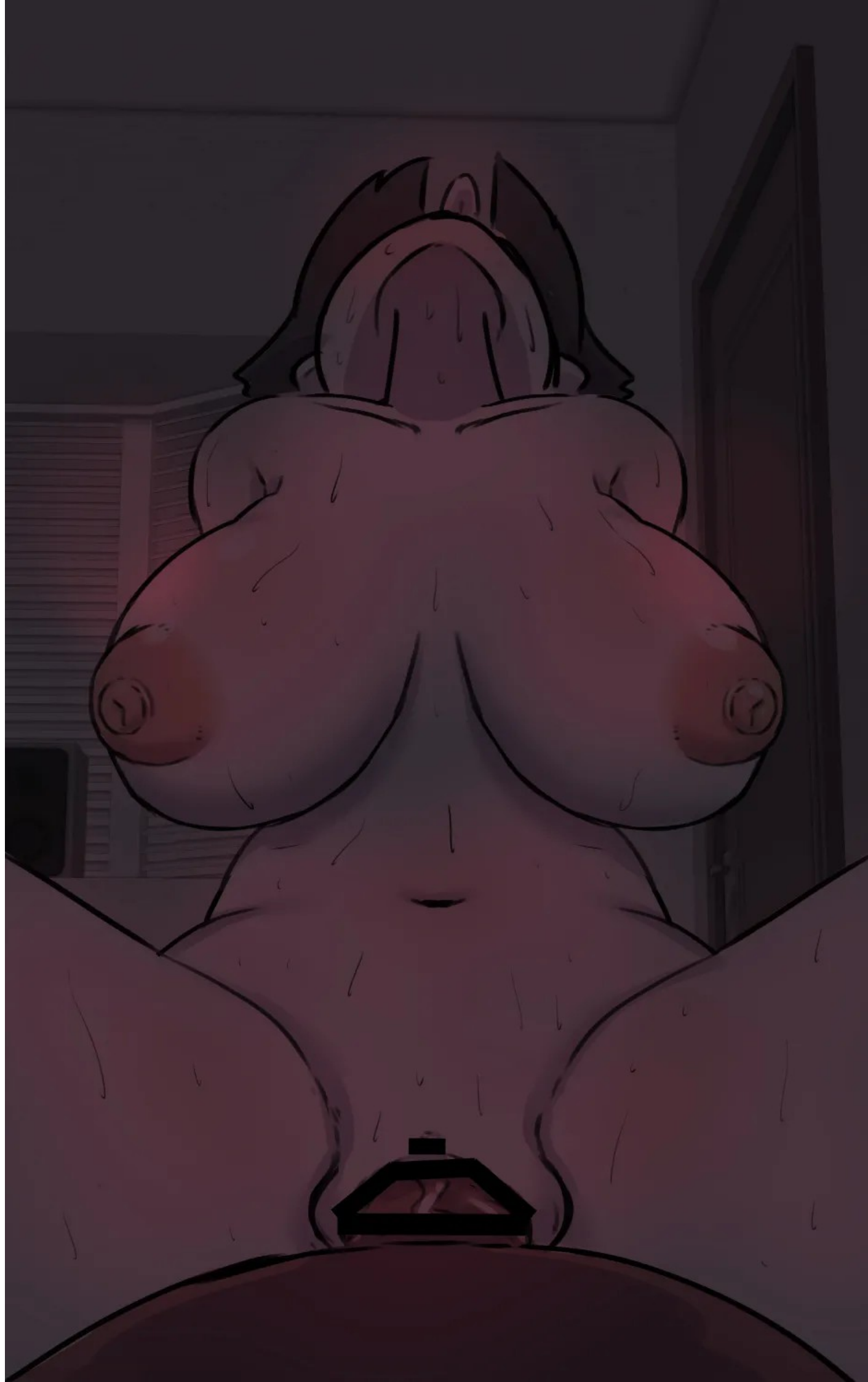
2

彼女は唇をだらしなく突き出し、いきながら嬉しそうに受け止めていた。

お♡

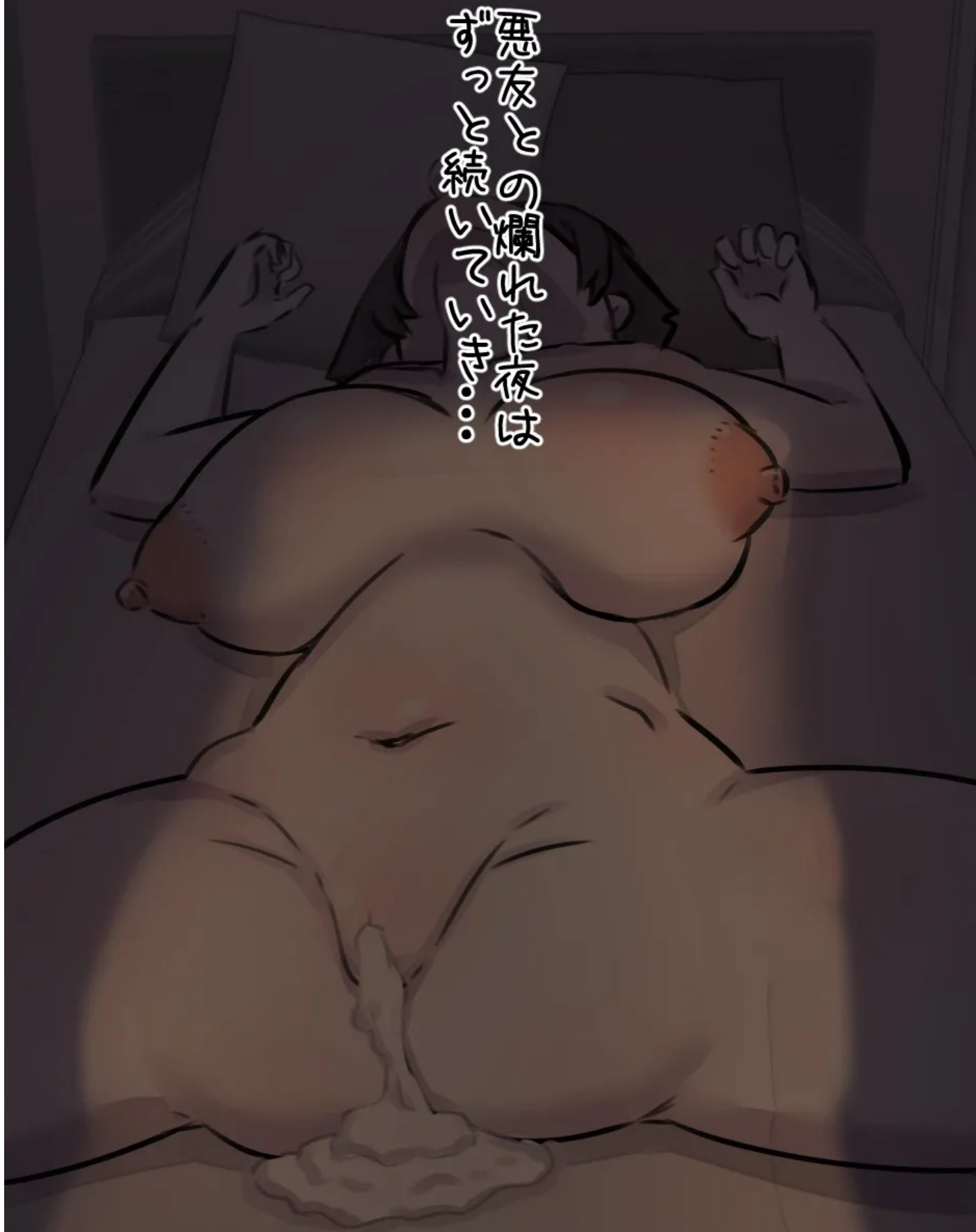
おほお♡

ほ  
お  
♡





悪友との爛れた夜は  
ずっと続いていき……



気が付くと、夜明け前になっており、  
窓からうっすらと朝日が差し込んでいた。





何十と数え切れないくらい  
繰り返したセックスは終わる。

あ♡

あ♡

は♡

あ♡

彼女はベッドの上で  
割れ目からこぼこぼと  
精液に垂れ流しながら痙攣していた。



やりすぎたのではないかと、  
少し心配になる気持ちもあったが

あは♡

はあ♡

は♡  
は♡  
は♡

♡♡♡♡♡

かすかに聞こえるその声は満足げで、  
嬉しやうに感じられた。





彼女は、軽く痙攣するたびに、  
潮を吹き、どぷりと膣から  
精液を吐き出していたが、

あ♡

ん♡

はい

あ〜

ん♡

そのまま満足げうに眠りについた。



占拠された入ミズに苦悶しつつ。

そして俺も眠りにつく。





そして朝

でさく  
信やっばさく

俺たちは何事もなかったように、  
会話をした。

ただの幼馴染、昔ながらの悪友、  
昨日までと同じ関係のように。

ごく普通の、  
今までと変わらない会話だった。



そしてドアの前で、悪友を見送った。

今度は信也と一緒に飲むことを約束して。





見送ったあと、ふと悪友のことを考える。



信也が来られないことを事前に伝なかったこと。  
中止にしないで、1人で飲みに来たこと。

…あらかじめ、避妊薬を飲んできたらしいこと。

おやうく、初めから「フフフ」と「なにするのぞ」  
目的だったのだろうか。

信也と何かあったのか？  
単に欲求不満だったのか？

…ありえないだろうが、俺に気が合ったのか。

結局のところ、全てはあいつの胸中にある。  
考えても、俺には理解できる余地はない。





我ながら薄情なことに、  
親友の妻を寝取ったことの罪悪感には薄かった。  
ただただお互い求めあった、それだけなのだ。  
そして俺たちは快楽の蜜の味を知ってしまった。  
俺たちのセックスの相性は最高だったようだ。

あいつは、信也に欲求不満だったから、  
手短な俺に行為を求めたのだろうか。

。。。やはり考えても仕方ない。



あの情事から、数週間立つ。

ただ、何となくだが、  
俺が予感していることは……。





ぴんぽん

きっとあいつは、  
これから何度も俺の所に来るのだろう、  
ということだった。

信也を連れずに。





# おまけ

など

よし  
元気かし



※初期キャラデザ

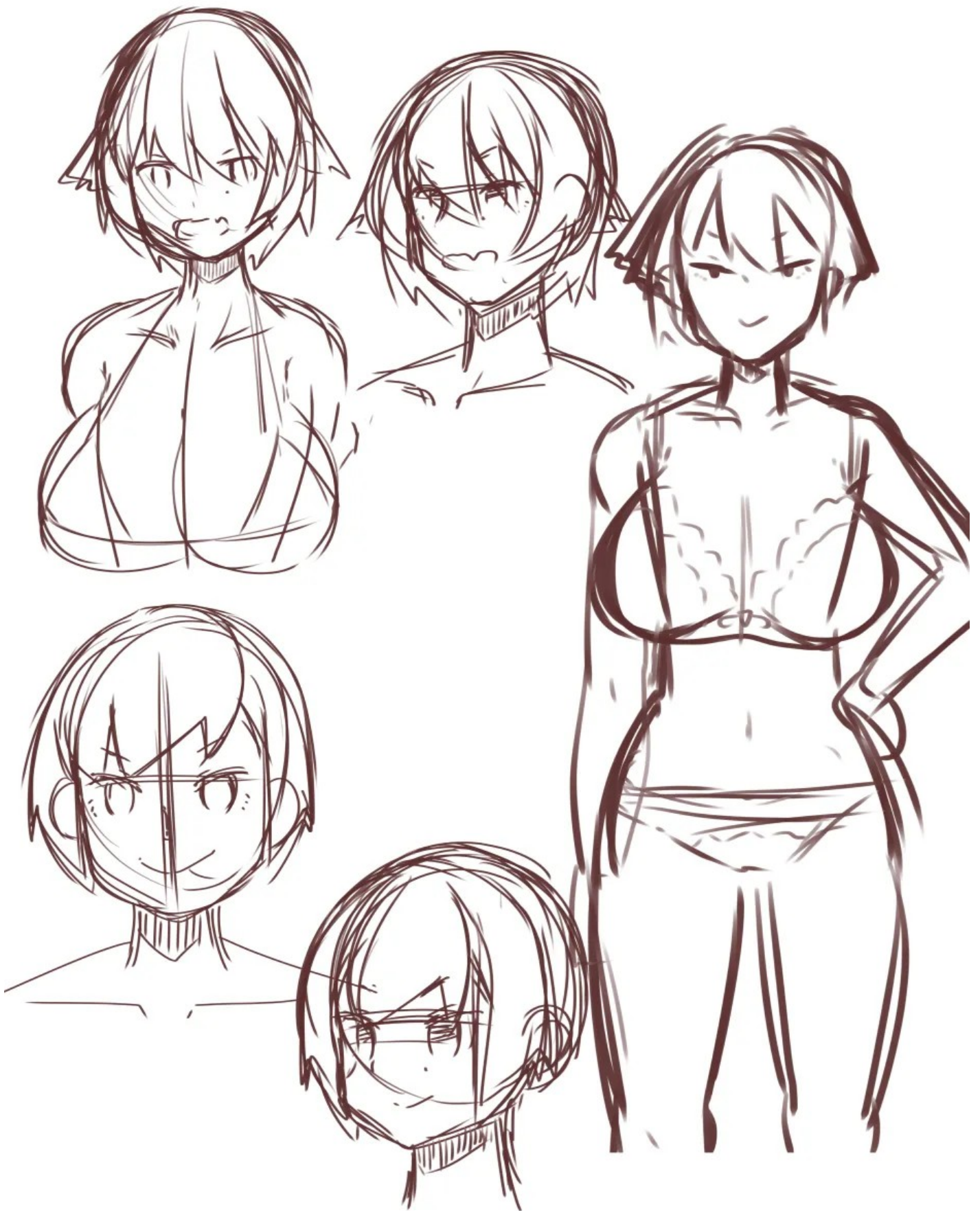
## 【設定など】

- ・29歳
- ・身長165cm、体重59kg
- ・B105(I)、W65、H86
- ・信也と3人と小学生からの幼馴染
- ・信也とは高校生から付き合い始め、社会人3年目で結婚
- ・サバサバした性格で女にもモテていた
- ・交際、経験相手は信也のみ
- ・実は性欲がものすごく強いのだが、信也は優しすぎるので満足したことはなく、それどころか今まで、一度も満たされたことはなかった
- ・主人公と関係を持って、初めて肉欲を満たすことが出来た
- ・主人公と関係を持った後、信也には申し訳ないと思いつつ、あの晩のことを忘れることができない



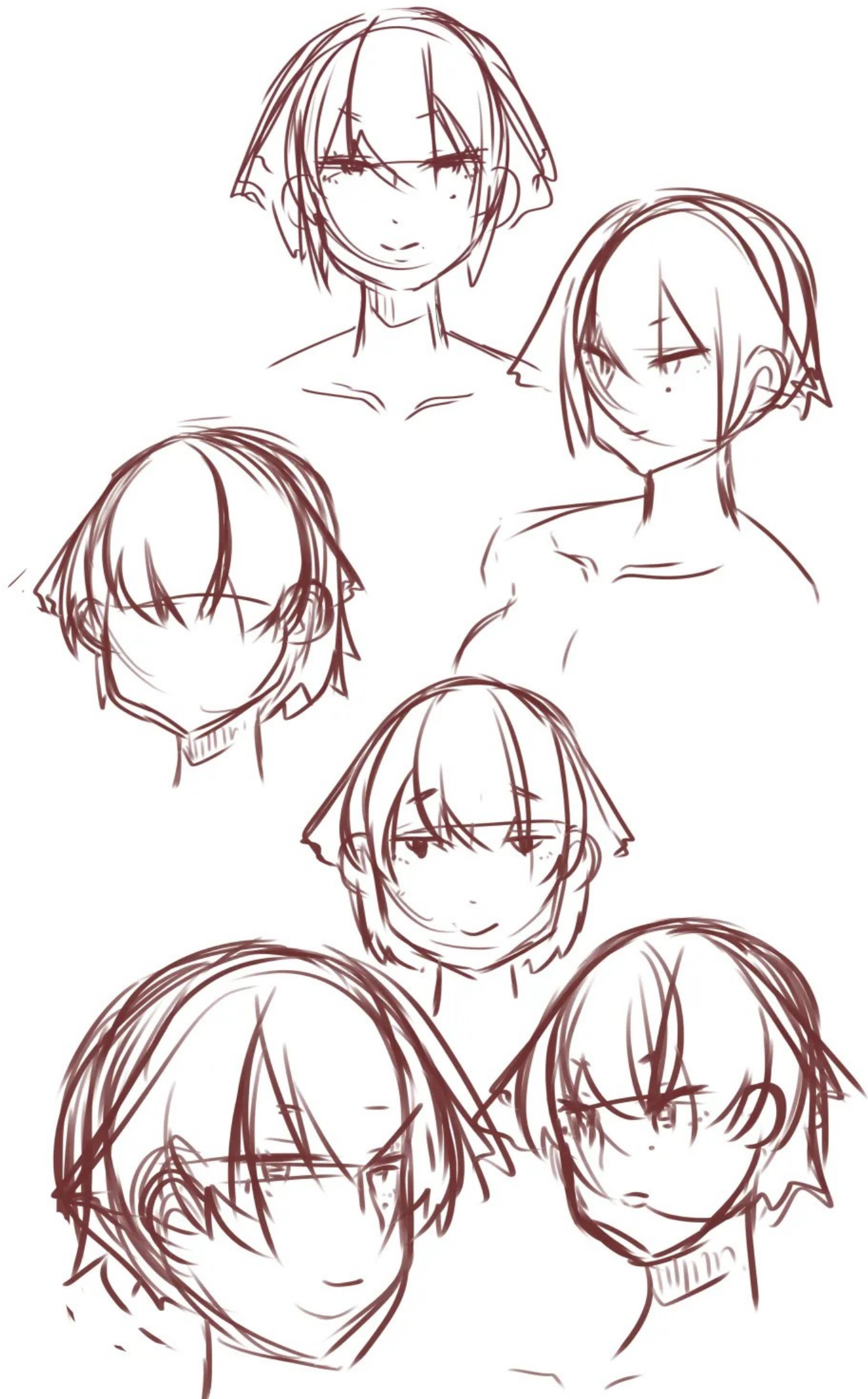


# 色々なキャラデザイン過程の ラフなど









































































































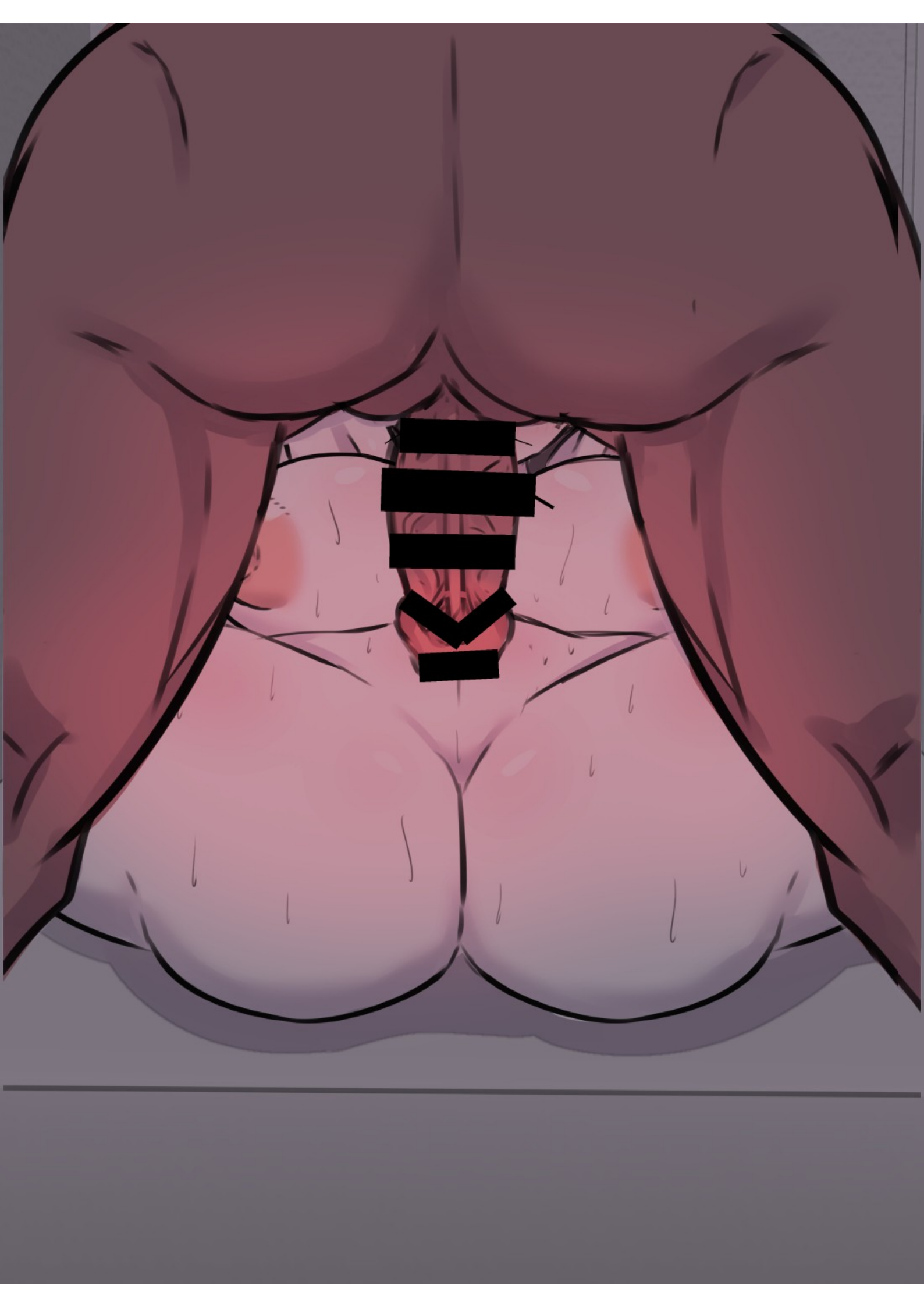




















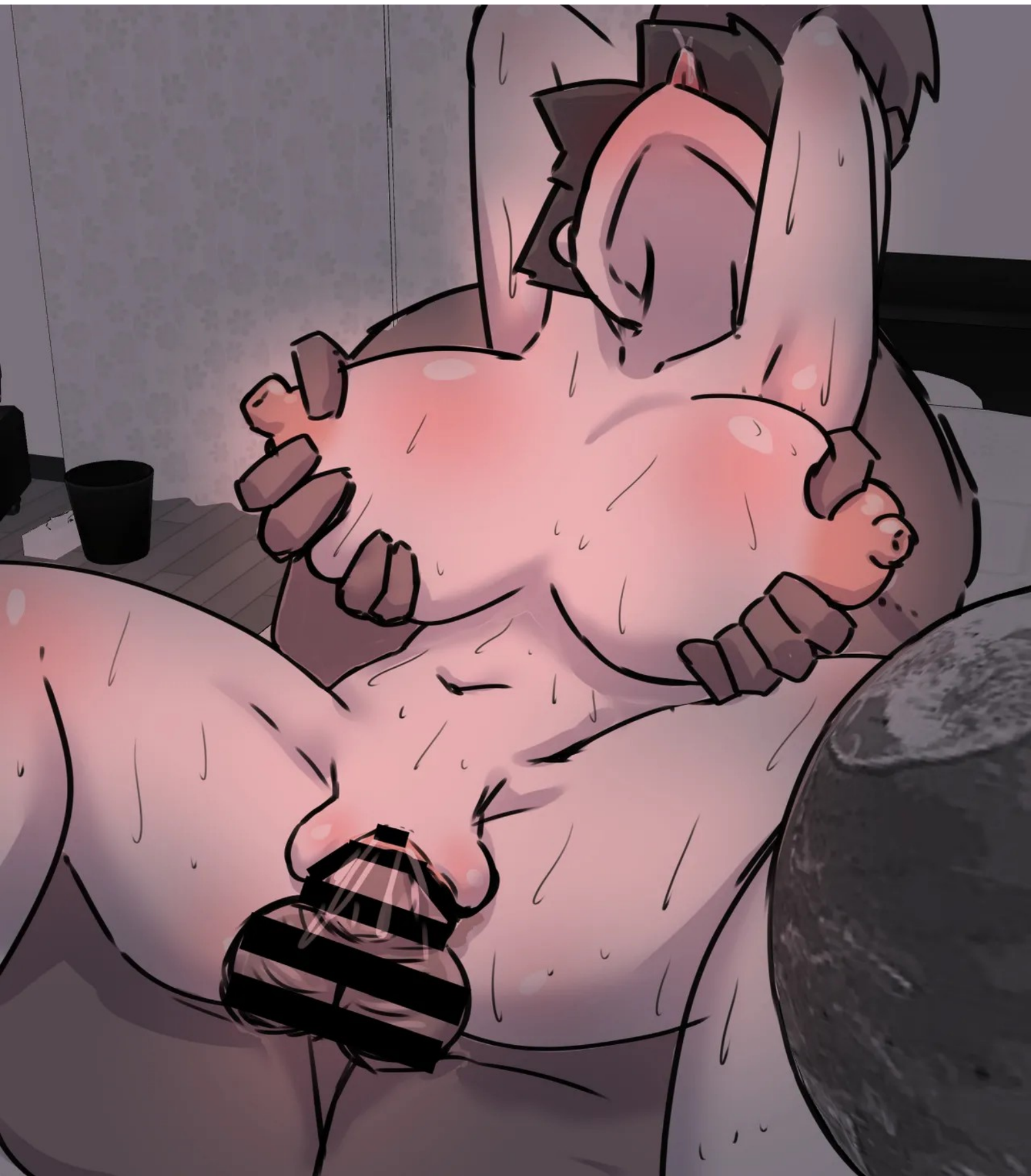
































今日あいつ来る日だよな！

ったく準備がめんどいったら  
ありゃしない…

その辺の草食やし  
ときゃいいか！

…冗談だよー





僕は今、幸せだと思う

漠然と、そう感じている

仕事は夜勤がたまに入って  
大変なことがあるけど、  
問題なくこなせている

プライベートもトラブルがない  
そしてなにより…



ようお、休憩中か？

何見てんだ？

ぬっ

ぐ

むにー

僕の、奥さんの存在

あら、やういえは  
もう紅葉のシーズンから

僕と違って気が強くて、  
男勝りなところがあるけど、  
そこが彼女の良いところだ  
と思っっている

近いうちどっか紅葉狩り  
にでも行きたいな

ぐに

もに



僕の興さん…  
「興さん」というのは今でも気恥ずかしい

なぜなら彼女は子供の頃からの縁、幼馴染だからだ

昔から好きだったのだが、  
告白できたのはずいぶんと  
後のことだった

告白は成功だった

人生で一番うれしい出来事だった

そしてお互いいろいろで行動を起すはず、  
かなり長い交際期間を経て、  
ようやく初めてエッチをした

子供の頃、お風呂で見て以来、  
始めてみる成長した幼馴染の裸体に  
僕は興奮しっぱなしだった



初めてのエッチは、僕にとって気持ち良すぎる出来事だった



興奮しすぎて、すぐに達してしまっただけだった

…今でもすぐに達してしまうのだが

彼女もその時気持ちよかっただろうか？

そうあってほしいと思う



ぼくは彼女が好きだ

だからエッチは優しく、彼女を気遣ってやるものだ

ぽんぽん ぽんぽん

おっ？

おー来たかー！

まあ上がったって来てよ

ガチャッ！

おう、信せ！

ガッ

今日の飲み会よろしくな！

つまみ色々買って来たぜー！



そして親友の〇〇の存在…

今日は家で飲み会をする  
約束だったのだ

僕とこいつとも奥さんは  
全員同じ幼なじみだ

奥さんに告白する前には、  
よくこいつに相談して勇気を  
もらえ、今でも感謝している

お、来たから、相変わらな  
しけたツラだな！

うるせんお前もな

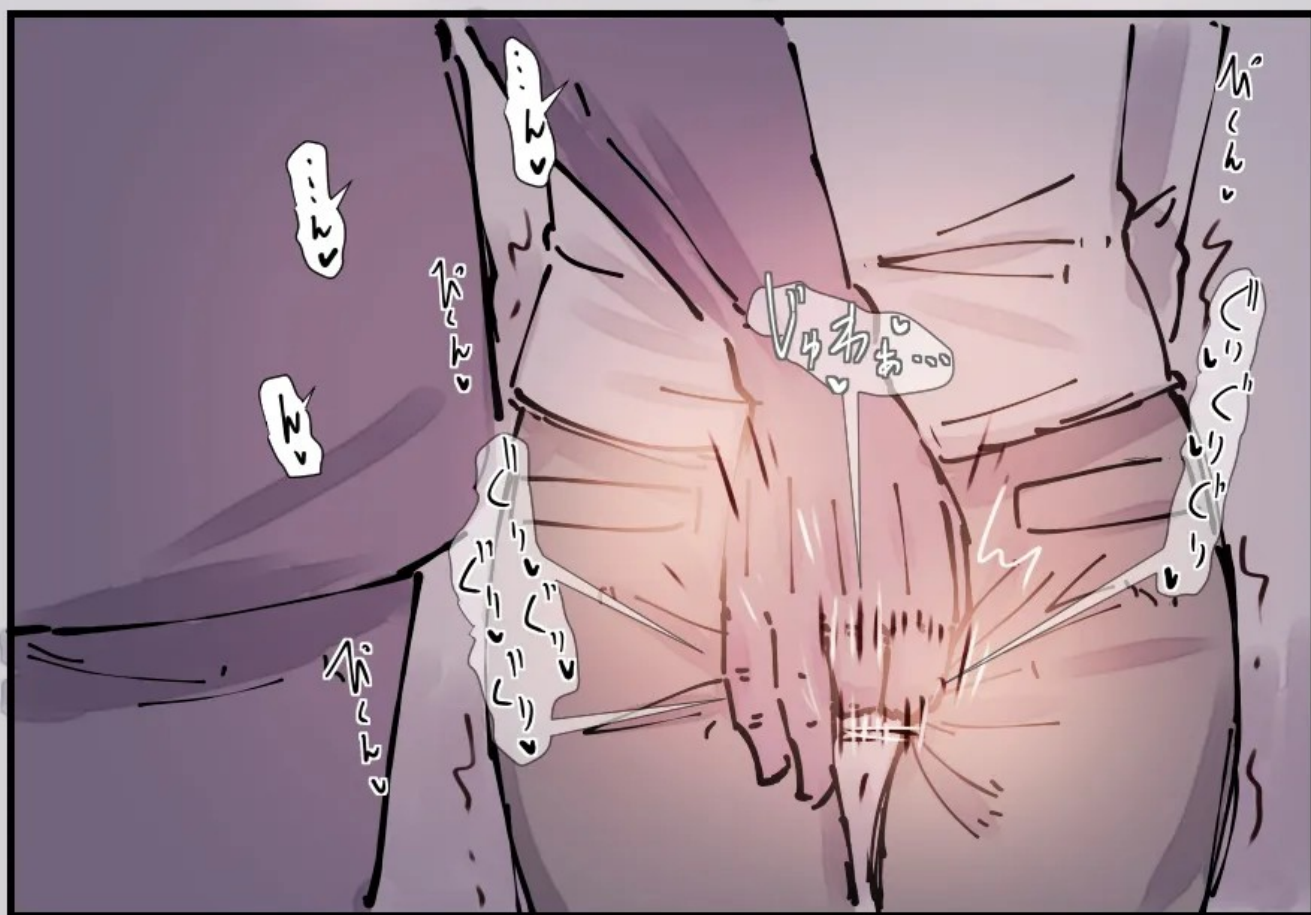
…すまん  
トイレ貸してくれるか？  
ちょっと調子悪くて

おいおい、うちは公衆トイレか？  
まあ仕方ないからいいけど…

…おっと、  
私も管理人さん  
とこに用事あるの  
思い出したので  
下行ってくる

わかったよ、じゃあ僕は  
台所で少し準備してるかな

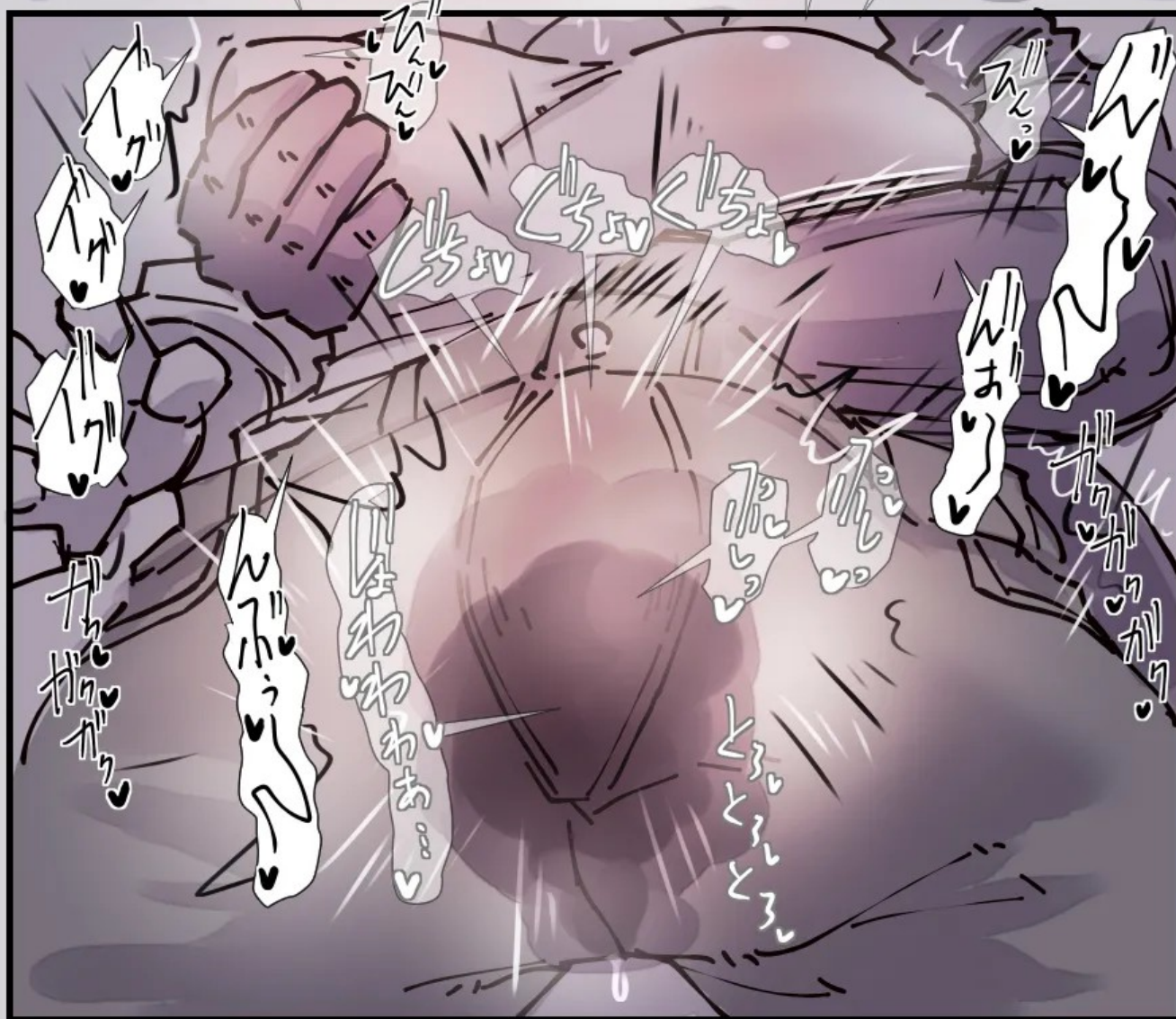
ぬっ







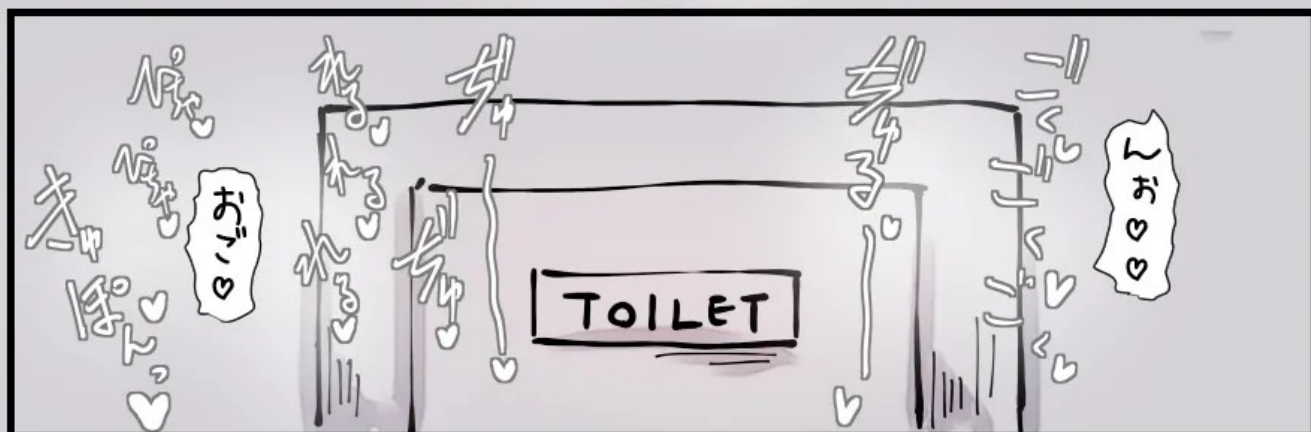
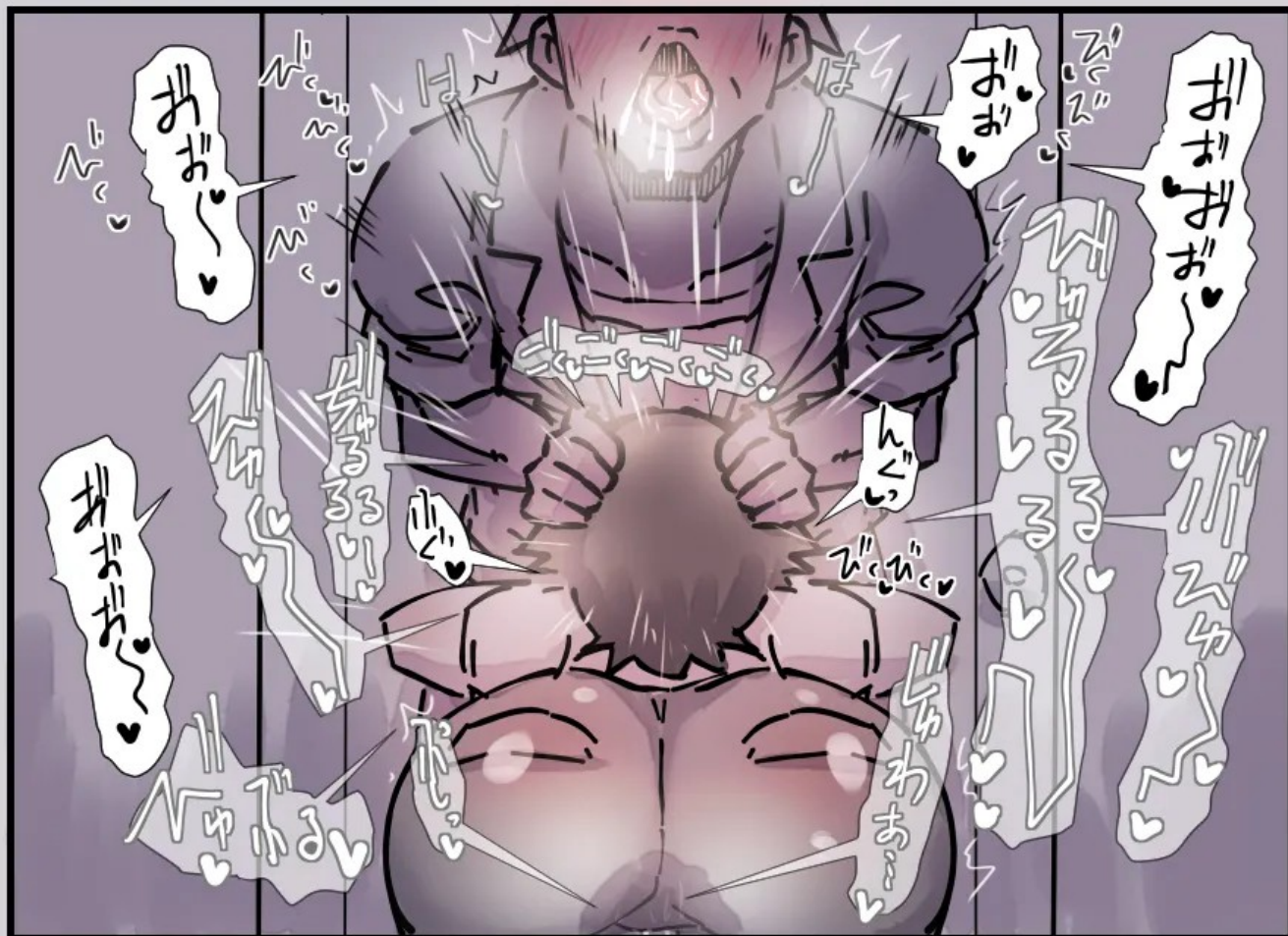












あれ……？

今日あんな色のズボン  
だったっけ？

下ごしらえ  
ありがとな、  
少し休んでくれ！

……気のせいかな？

おい、〇〇  
てめんも手伝えよ！

お前でも  
野菜切るくらいは  
出来るだろう

……色々言いたいけど、  
信也のメンツに免じて  
黙って手伝ってやろう

ああ、僕は幸せだ……

楽しいなあ……

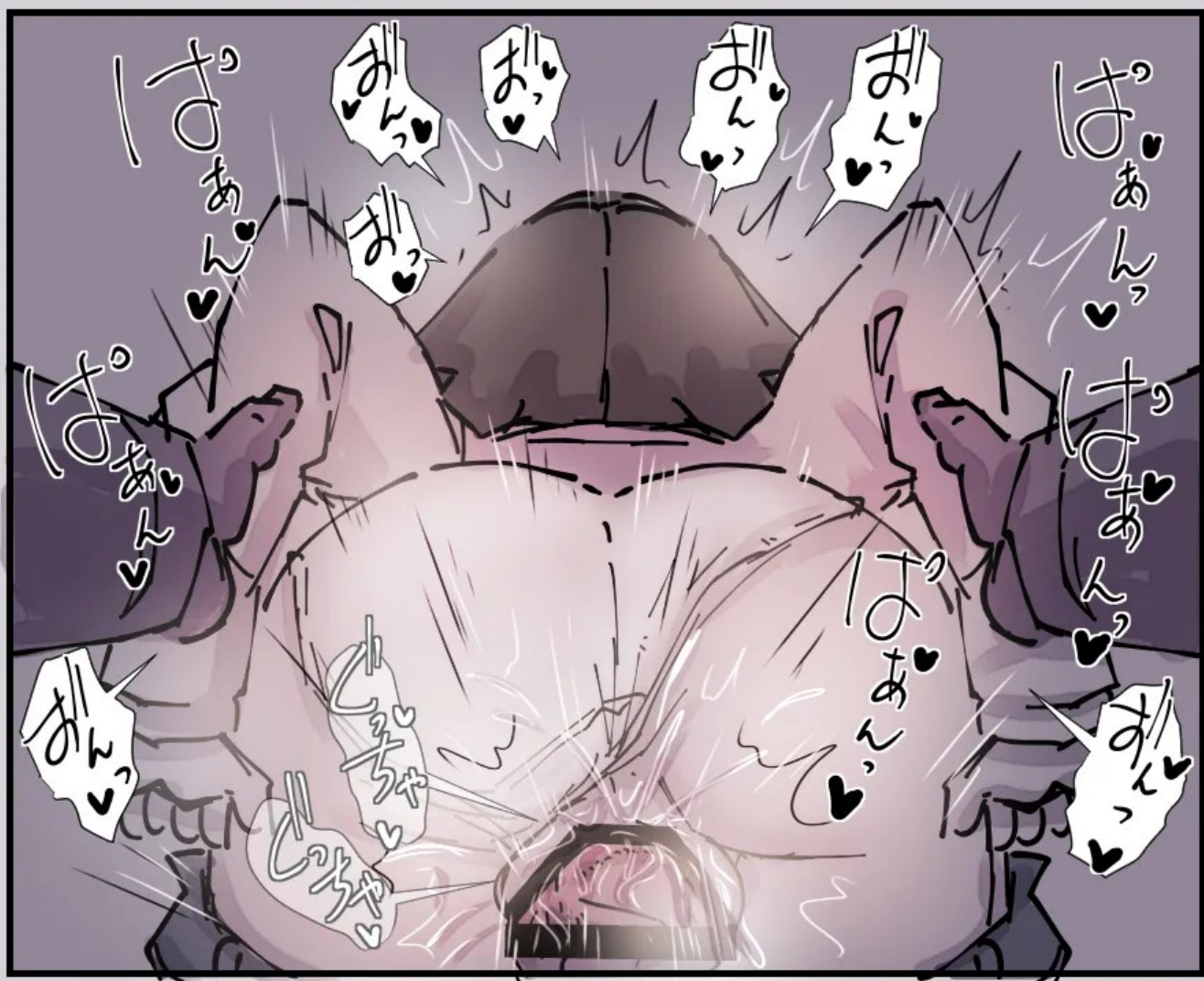
奥さんがいて、  
親友がいて……

大人になっても、  
幼馴染どおし集まって、  
気兼ねなくバカ騒ぎして  
飲めるなんて……













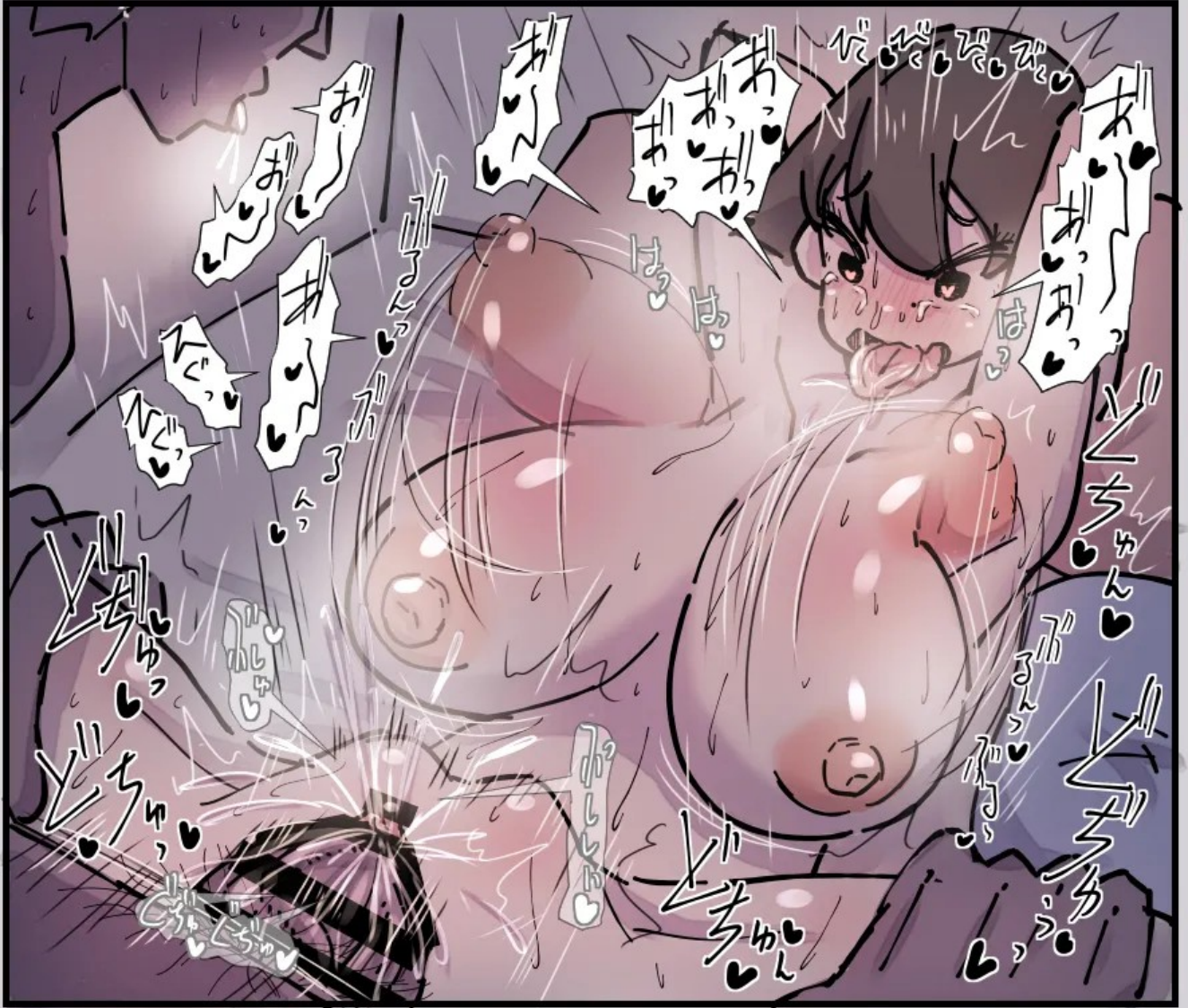
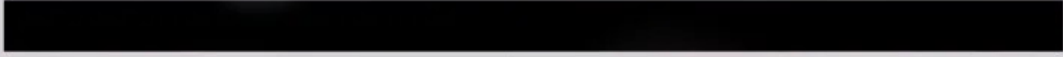




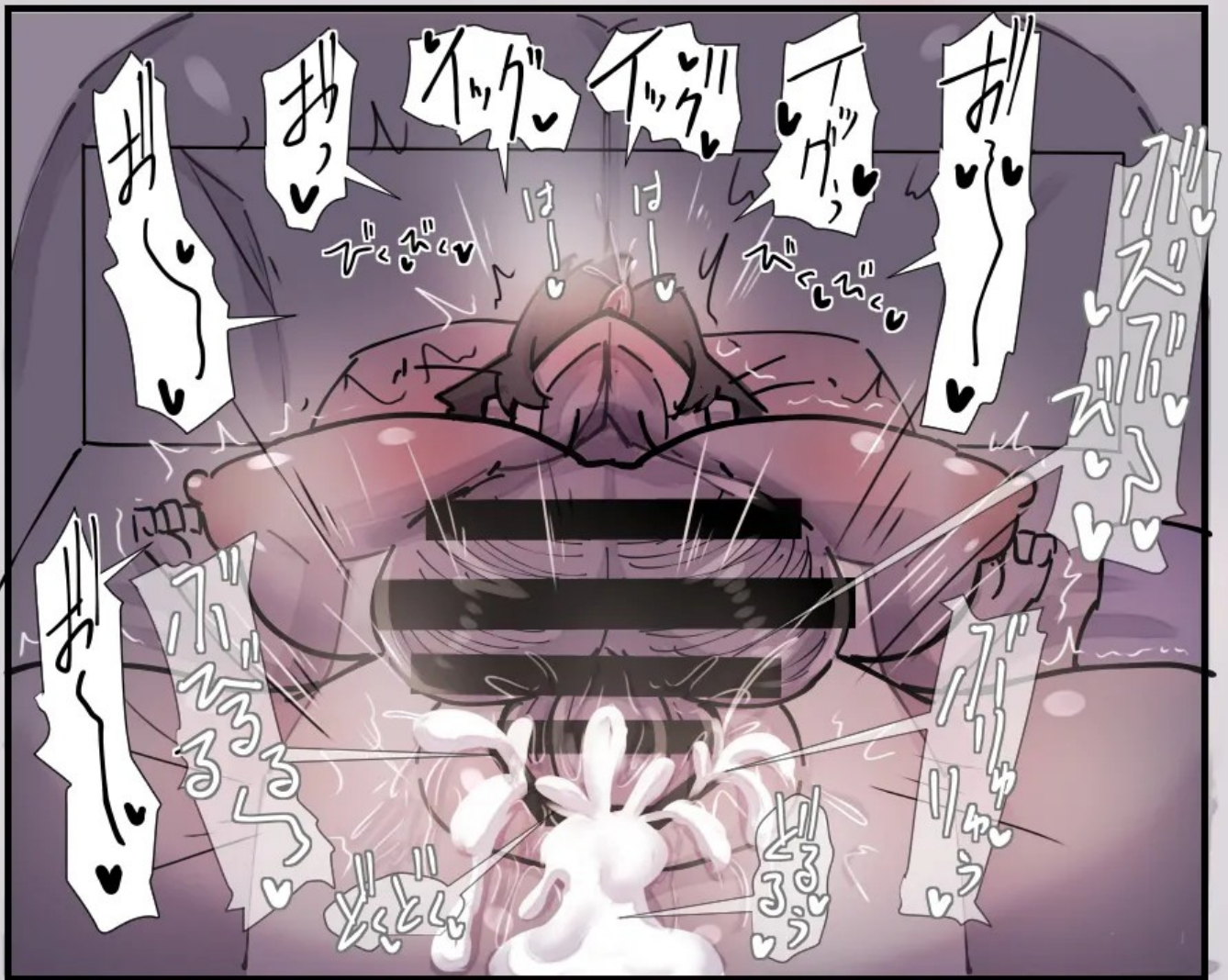






























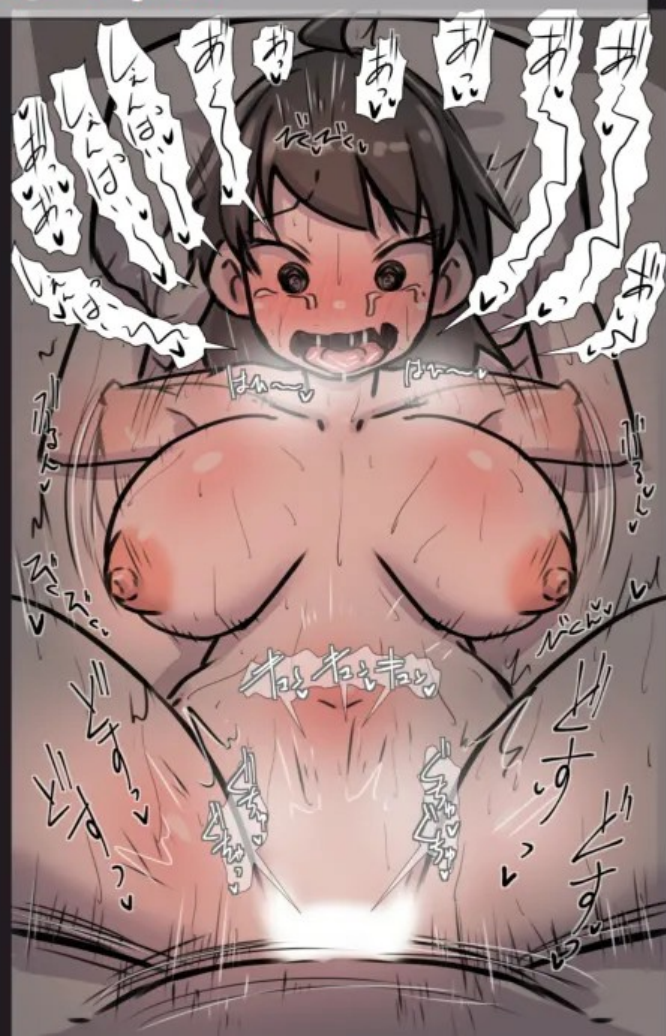
小生意気でバカで元気な後輩と  
酒の勢いで一線超えてしまった話



Kindleで"配信中(Unlimited加入者読み放題)"

小生意気で"バカ"で元気な後輩と酒の勢いで

## 一線超えてしまった話











おーおー

今日も来たよー  
ありがたく思えよー

相変わらずシヨボくれた顔  
してるねー

何突っ立ってんの？  
私が何も言わなくても  
さっさと準備しろ  
このザコ

ったくほんとザコさ

ちーんの

ちーんの



はーいー  
じゃあチーゾー

私とおにさん  
繋がってるの、  
記念に撮っておくさー

誰かに言ったらだめだよー  
ほいほい...

ただただ盲目的に  
この子に従っている  
おれは確か2週間前...



おの  
突然すいませー

なにこれにナニ  
突然すいませー

おの  
突然すいませー

おの  
突然すいませー

おの  
突然すいませー

おの  
突然すいませー



何だこの子は？  
なんか振返ってて派手だけど...  
可愛くてスタイルも完璧いなお

おの、今日遊ばせただよ  
友達がこれならいいって言うし...

おの、今日遊ばせただよ  
友達がこれならいいって言うし...

おの、今日遊ばせただよ  
友達がこれならいいって言うし...

おの、今日遊ばせただよ  
友達がこれならいいって言うし...

おの、今日遊ばせただよ  
友達がこれならいいって言うし...

【各種電子書籍サイトで販売中】  
×スガキママちゃんにわからせられて  
わからせて 分かり合う話



おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー

おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー  
おはー  
まだまだ  
出るさー





お〜い相棒〜!!

早く遊びに行こうぜ!



**【各種電子書籍サイトで販売中】**  
**田舎の元気なサキュバスちゃん**  
**と相棒と呼び合う仲になる話**

こいつは田舎で知り合った相棒



ぼくは、生命の田舎で  
毎日こいつと遊んでいる





子供の頃憧れていたお姉さんに  
十数年ぶりに再会したら  
全然変わっていなくて  
また好きになって告白する話。

U-Non  
(ユーノン)



## Kindleで配信中 (Unlimited加入者読み放題)

子供の頃憧れていたお姉さんに十数年ぶりに再会したら  
全然変わっていなくてまた好きになって告白する話





ただの幼馴染で悪友で、  
親友の妻だと思っていた女と  
ただれた関係になる話。



U-Non  
(ユーノン)

段々とメス声が高くなり、より獣じみてきた。  
もう絶頂が近いことが見て取れる。

ああ♡  
ああああ♡

だめ♡

はっ♡

はっ♡

ああああ♡♡♡  
いっ♡  
いっ♡

今までで乱れてくれたことに  
喜びを思いつつ、俺はこいつを  
思い切りイカせるため、思い切り奥に突き刺した！

とぎや♡

とぎ♡

はああ！

イけ！  
イけ！

ふうう！

Kindleで配信中(Unlimited加入者読み放題)  
ただの幼馴染で悪友で、親友の妻だと思っていた女とただれた関係になる話

乳房を強引に揉みしだきながら  
同時に膣穴の出し入れを  
開始した。

お♡んお♡

お♡お♡お♡

ひっ♡ひっ♡

悪友は胸と膣穴  
両方同時に攻められ、  
もう取り繕うことも  
できずに下品な  
喘ぎ声を上げ始めた。



俺もこいつと同じ気持ちだ。  
何度してもいいやない。  
もっともっとこいつと  
ドローロになりたいたい。  
もっとお♡

気持ちよくなろお♡

お♡

ねん♡

おちが♡

こいつの体を貪りたい。  
精液を流し込みたい。







## 【各種電子書籍サイトで"販売中"]

色々大きい怪異ちゃんに襲われたけど

なんやかんやあって良い仲になって幸せになる話







発情した巨乳妹サキュバスに  
縛られたけど兄として頑張る話



【各種電子書籍サイトで販売中】

発情した巨乳妹サキュバスに襲われたけど  
兄として頑張る話

